

Kodak
LICENSED PRODUCT

© The Tiffen Company, 2000

KODAK Color Control Patches

3/Color

White

Magenta

Red

Yellow

Green

Cyan

Blue

Black

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 B 13 14 15 17 18 19

日本地誌要畧

大槻修二編

二

卷二
東山
中山道
奥羽

ル 3
2132
2



儿宮
2/32
2

大槻修二編

日本地誌要略

明治九年六月
青山紅樹書樓藏版

中山道全圖

カタラリ
山美々

中山道與全國圖



東山道

東山道ハ近江美濃飛驒信濃上野下野岩代磐城
陸前陸中陸奥羽前羽後各十三國ナリ近江以下
ノ六國ハ東海北陸兩道ノ間ニ夾リ東ニ亘ル百
五十里是ヲ中山道ト稱ス北境ハ連岳一帶相列
ル即全國ノ脊梁ナル大山脈ニシテ其南ヲ限ル
山脈ハ信濃ノ東端ヨリ西ニ連リ海山兩道ノ中
間ヲ亘リ美濃尾張ノ間ニ至リテ盡ク近江ハ畿
内及山陰道ニ接シ四圍皆山ナリ中ニ一大湖ヲ
湛フ琵琶湖是ナリ美濃ノ南ニ亘リテ地勢甚平

ナリ、飛驒信濃ハ山脈ノ間ニアリ、上野下野ハ關
東ニ屬シテ、八州ノ平野ニ連リタリ、其岩代以下
ハ、地勢折レテ北ニ赴ク、亦百五十里、東西ニ海ヲ
受ケ、北端ハ、北海道ト相對ス、即陸奥出羽ノ舊地
ニシテ、地勢風土、自一道ヲナス、故ニ今、全道ヲ以
テ、中山、奥羽ノ西部ニ分ツ、
近江ハ十二郡、滋賀シカ、栗本コノ、甲賀カキ、野洲ノソウ、蒲生ハセウ、神崎カニサキ、愛
智アイ、犬上イノノ、阪田サカタ、淺井アサヰ、伊香高島イカカミナリ、
古ハ淡海ト云フ、國ノ中央ニ一大湖水アリ、故ニ
名ク、其後、遠江ト相對シテ、今ノ字ヲ用キタレド、

天橋歸帆、
石山秋月、
勢多夕照、
三井晚鐘、
聖田落戸、
辛崎夜雨、

尚、其稱呼ヲ改メズ、○湖水ハ、南北、二十里計、周回
ハ七十三里ナリ、其幅ハ、東北、頗廣大ニシテ、十餘
里ニ及ベ氏、西南ニ至リテハ、堅田カネタ、今濱イマハマノ間ヨリ、
兩岸漸狭リテ、其間二三里ニ過キズ、鴈海ト云ヒ、
又形ヲ以テ琵琶湖トモ呼ブ、日本第一ノ大湖ニ
シテ、富士山ト並稱シテ、我國ノ雙美トナス、風光
ノ美麗ナルトハ、比良暮雪、粟津晴嵐等、謂ユルハ
景ノ稱アリ、湖面ハ殊ニ平ニシテ、鏡ヲ開クカ如
ク、沖島、竹島ノ二小島、其中心ニアリ、沖島稍大ナ
リ、而テ竹生島ハ、湖ノ北隅ニ峙チ、岸ヲ距ルト僅

ニ半里計、其周回モ亦相若ク、全山、岩石ニシテ、四面共ニ絶壁ナリ、岩下ニ洞門アリ、其他ハ屏風材木ノ諸岩アリ、山上ニ觀音堂ヲ設ク、故ニ詣スル者、常ニ多シ、是ヲ湖中奇絶ノ處トナス、湖水、南ニ流レ、大津、粟津ヲ過ギ、逼リテ川トナル、是ヲ勢田川ト云フ、大小二橋アリ、其長、一百廿間、此橋ハ京畿ヨリ東方ヲ扼スル要口ニシテ、古來、爭亂ノ日、攻守相挑ミテ、屢是ヲ燒キ落ス、遠クハ壬申ノ亂ヨリ、沼承、承久ノ役、先元年官軍、尊氏ヲ拒ヒテ敗ル元弘、應仁ノ戰皆然ラザルハナシ、然レ守者多ク、敗ル、元年北條高時、兵後、醍醐帝ニ平定院ニ追ル惟、押勝ノ叛ニ、走路ヲ斷

應仁ノ勝元ノ宗全ノ乱

帝ハ天皇大友、大海人皇子ヲ勢多ニ拒テテ敗ル
治承ノ頼政以仁王ノ令ヲ奉シ平氏ト戰ニ茂道ニ敗ル
承久三年官軍北條氏ト戰ヒ敗ル
順徳帝ノ世ナリ

チテ、其功ヲ奏セルノミ、○川流ハ南ニ下リ、石山ヲ過ギテ西ニ轉シ、四里ニシテ山城ニ入ル、宇治川、是ナリ、國境ハ、兩岸高ク逼リ、岩石、河中ニ並峙チ、鹿飛、米炊等ノ險アリ大津ハ國ノ都會ニシテ、東海、東山ノ官道ニ當リ、西京ヲ距ル僅ニ三里、中間ニ逢坂山アリ、古ハ京畿ノ關ヲ置ケリ、關東ノ稱ノ由テ起ル所ナリ、西ハ志賀山、ナガラ長等山等、相連リテ、比叡山ニ接ス、其麓ニ三井寺、日吉社等ノ古寺、大社アリ、街市ハ膳所ノ城市ト相連リテ、湖水ハ西南ノ隅ニ臨ミ、北岸

ナル海津鹽津ト通船常ニ湖上ヲ往来シ近年ハ
蒸氣船ヲ用キ北國ノ運輸大ニ其便利ヲ得タリ
而テ西國ノ通路ハ伏見へ直道四里ニシテ淀川
ノ船運アリ○抑此國ハ畿内ニ接近セル故ニ帝
都ヲ建テ給フアリ成務帝ハ志賀ニ都シ天智
弘文ノ二世ハ大津宮ニ居給ヒ其後孝謙帝ノ時
ニ紫香樂宮ヲ造リ給フ凡畿外ニテ定リタル都
趾ヲ存スル者此國アルノミ
國ノ四境ハ悉連山繞リ圍ミ内地ハ湖水ヲ以テ
東近江西近江ノ稱呼ヲ建ツ西地稍狭ク比良朽

木ノ諸山ハ比叡山ノ北ニ連リ山城丹波若狹ニ
接ス湖ノ岸ニハ大溝今津ノ諸邑アリ○東地頗
廣シ南ニ三上山鏡山アリ北ニ佐和山磨針嶺ア
リ中間ハ蒲生野沖野等アリ佐々木氏世々此地
ヲ領シ城ヲ觀音寺ニ構ヘシガ後織田氏ニ滅サ
ル信長更ニ安土ニ築キ湖水ニ臨ミテ城壁ヲ設
ク其製造最堅固ニシテ天主閣ノ制ハ實ニ此城
ヲ以テ始トス彦根ハ繁盛ナル城市ニシテ佐和
山ノ南ニアリ其西濱ヨリ湖ニ沿ヒテ北五里ヲ
長濱トナス羽柴氏ノ嘗テ城ヲ設ケシ處ニシテ

街市ノ繁榮、運輸ノ盛ナルヲ、大津ニ次クト云フ、
此邊ヨリ東北ニ亘リテ、湖北ノ稱アリ、淺井氏ノ
所領ニシテ、其城趾ヲ小谷山ト云フ、
伊吹山ハ、美濃ニ跨ル大山ニシテ、高ク東境ニ列
リ、群岳ノ上ニ出ツ、蓋此山ハ、北境ニ亘ル大山脈
ヨリ、南ニ分レテ、別ニ一ノ山脈ヲ起ス者ニシテ、
靈山、其脈ヲ受ケテ、本中北ノ三峯相聳ユ、三國岳
釋迦岳、高畑山等ノ連山、其南ニ並列リテ、伊勢ノ
藤原鎌鈴鹿ノ諸山ト腹背ヲナス、正南ハ伊賀ヲ
包ミテ、油日山、上岐峠等アリ、遂ニ南ニ走リ、大和

紀伊ヲ入リ、吉野熊野ノ重山疊峯トナリテ、南洋
ノ岸ニ盡ク、○横山新穂ノ諸岳ハ、伊吹山ノ後陰
ニ列リ、北ニ環リテ、越前ト界ヲ分シ、椽木峠山中
越等ハ、大山脈ノ間ヲ貫ク坂路ニシテ、頗險峻ナ
レ、北國ニ往來運輸スル者ハ、人馬共ニ是行由
ヲサレナシ、
全國ハ川流ハ、四境ハ山溪ヨリ出テ、悉湖ニ入
ル、土俗ハ八百八水アリト云フ、然レ、氏平時ハ水
ナキ者多シ、且、川路ハ何レモ長キ堤上ニナリテ、
其高ハ、殆ど人家ノ屋梁ト均シキ者アリ、黒津川ハ

源ヲ土岐峠ニ發シ、北ニ下リテ西ニ轉ジ、大戸ノ
龍トナル、沿岸ノ地ハ、即信樂郷ニシテ、孝謙帝ノ
宮趾アリ、其地性茶ニ適ヒテ、山城ノ宇治ト並稱
セラル、下流ハ田上川ト共ニ、勢田川ニ入ル、松尾
川ハ、高畑山ヨリ出テ、西ニ流レテ土山水口ヲ過
ギ、横田川ト云フ、野田川ハ、油日山ヨリ来リ、相會
ヒテ三上山ノ麓ヲ流レ、末ハ分レテ二川トナル、
本流ハ今濱ニ注ク、共ニ野洲川ト云フ、愛智川ハ、
釋迦岳ニ出テ、源流ニ萱尾龍アリ、天上川ハ、三國
岳ニ發ス、一ニ高宮川ト云フ、各高ニ流レテ、安土

彦根ノ間ニ入ル、其他ハ仁保、善利ノ諸川アリ、湖
西ハ石田川、安曇川アリ、而テ湖北ニ姊川アリ、新
穂岳ニ出テ、西ニ折レ、草野川ヲ并セ、椽木峠ヨ
リ來ル高時川ト共ニ、長濱ノ北ニ落テ、朝妻川ト
源ヲ靈山ニ發シ、伊吹山ノ南ニ出ツル大富川ヲ
併セ、朝妻ニ至リ湖ニ入ル、故ニ名ク、北隅更ニ余
吾川アリ、源ヲ余吾湖ト云フ、周回ニ里半、賤岳ヲ
以テ、大湖ノ間ヲ限ル、湖ノ北ハ、木本柳瀬田ノ北
ハ、椽木峠ニ至ル、村里皆兩山ノ峽ニアリ、山内ト
稱ス、越前ノ兵常ニ此間ニ出テ以敗亡スル者前

後兩氏アリ、朝倉氏ハ淺井氏ヲ助ケテ姊川ニ敗レ、共ニ其礼ヲ斷ツ、柴田氏ハ輕進シテ、柳瀬ノ敗アリ、國、忽亡滅ニ就ク、兩次ノ勝敗、遂ニ織田氏羽柴氏ヲシテ、大ニ其志ヲ得セシム、賤岳ノ七槍ハ、尤、其著名ナル者ナリ、

美濃ハ、多藝、石津、不破、安八、池田、大野、本巢、席田、厚見、各務、方縣、山縣、武儀、郡上、賀茂、可兒、土岐、惠那、及、羽栗、中島、海西ノ二十一郡ナレド、羽栗以下ハ、元尾張ノ地ナリ、木曾川ノ變遷ニ由リテ、此國ニ分屬ス、故ニ兩國同名ノ郡アリ、

東北西ノ三面ハ、連山繞リ圍ミ、北境ハ謂ヨル大山脈ニシテ、毘沙門岳、岩岳、明神山、屏風山等、相列リテ、殊ニ重深ナリ、稍西南ニ赴キ、和雷、真權、現ノ諸山並列シテ、伊吹山ニ接ス、國內ハ中央ヨリ西南ニ亘リテ、不破野、大野、各務野ノ三野アリ、國名ノ由リテ起ル所ナリ、故ニ地勢甚平坦ニシテ、直ニ尾張、伊勢ニ連ル、土地膏沃ニシテ、多ク良米ヲ産シ、河道四通シテ、運漕極テ便ナリ、然レモ往々水害ヲ受ク、木曾川ヲ以テ其國境ヲ分テリ、木曾川ハ、源ヲ木曾山中ニ發シ、東ヨリ来リテ西

南ニ流レ、^合合ヨリ川合ニ至ル迄、其間十五里、兩岸相逼リ、水流急激ニシテ、舟ヲ通ズルヲ能ハズ、其沿岸ノ郡邑モ、悉山間ニアリ、此地ハ國ノ東南隅ニシテ、三河飛驒ノ間ニ夾マリ、東ハ惠那岳高ク聳エ、^{ジツキヨク}十曲嶺、其北ニ並ビテ、共ニ信濃ニ接ス、嶺上ヲ水曾ノ分界トナス、其他又琵琶峠十三峠等アリ、中津川大井川等ハ、悉水曾川ニ入ル、惟土岐川ノ南ニ下リテ、尾張ニ入ル、飛驒川モ亦直流急下シ、^{ムコセ}馬瀬川ヲ併セ、南ニ流レテ川合ニ會ス、兩川相合フテ、水勢愈大ナリ、十里ニシテ太田ニ至

ル山圍始テ解ク、又舟行ノ利アリ、國境ニ沿ヒテ、西ニ赴キ、各務野ノ南ヲ限リ、笠松ニ至ル、此地ハ頗繁盛ナル街市ナリ、是ヨリ以下ハ漸大船ヲ用キ、往復殊ニ繁シ、洲股川ト合ヒテ南ニ流ル、此川ノ源ヨリ海口ニ至ル、長流六十里、^カ大氏河運便ハ、其半ニ及バズト云ス、^カ下流ハ、^カ此川ノ郡上郡ハ、諸郡ハ、上ニ居リ、東ハ飛驒ニ接シ、北ハ越前ニ界ス、大日岳兩國ノ中間ニ峙テ、西麓ニ阿彌陀瀧アリ、飛流五十丈、頗奇觀タリ、其傍ニ村摩池アリ、東ニ水宇禮池アリ、衆流相集リ、藍見川

ナリ、山間ヲ南ニ下ル數里ニシテ、既ニ舟楫ノ利
アリ、曾代、立花ヲ過ギ、毘沙門岳ヨリ来ル、舟川ヲ
併セ、西ニ赴ク、此間ハ兩岸ノ地、往々景勝ノ處多
シ、岐阜ヲ過ギテ、長良川ト云フ、是ヨリ沿岸ノ地
悉平坦ナリ、糸貫川ヲ併セ、下流ヲ洲股川ト云フ、
此地ハ養和ノ古戰場ニシテ、平重衡、大ニ源行家
ヲ敗リ、其姪義圓ヲ殺シ、其子行頼ヲ生擒セリ、平
野ノ中央ヲ、横流スル巨川ナルヲ以テ、水害ノ多
キ、實ニ此川ヲ以テ第一トナスト云フ、
イ揖斐川、サ叢川ハ、其ニ北境ノ山溪ニ發シ、一ハ東一

ハ西、各山間ヲ出テ、大野ヲ抱キテ相會シ、杭瀬川
ト云フ、大垣ノ東ヲ過ギテ、舟運ノ往来、伊勢ノ桑
名ニ通テ、栗^カ笠ニ至リ、牧田川ヲ併セ、南流シテ伊
勢尾張ノ間ニ入ル、伊尾川是ナリ、
岐阜ハ、稻葉山ニ據リ、長良川ヲ帶ヒ、東南ハ各務
野ヲ平望ス、街市ハ加納ノ城市ト相連ル、其間一
里計、其南ハ笠松ニ接ス、故ニ運輸ノ便、甚盛ニシ
テ、一都會ノ地タリ、齋藤道三、其主ト岐氏ヲ逐ヒ
テ、此國ヲ奪ヒ居城ヲ茲ニ構メ、其子龍興ニ至リ、
織田氏ニ滅サル、織田氏更ニ城樓ヲ稻葉山ニ築

キ尾張ノ清洲ヨリ来リ遷リ、後又近江ニ遷ルト云フ。○大垣モ亦一都會ナル城市ニシテ、越前近江ヨリ東海道ニ出ヅルノ官道ニ當リ、水陸共ニ通路アリ、石田三成ノ兵ヲ擧ゲテ、徳川氏ニ抗スルヤ、東軍ヲ此城ニ要セントシ、遂ニ出テ、關原ニ戦ヒ、西軍大ニ敗ル、此原ハ即、不破野ニシテ、又青野トモ云フ、天武帝、不破關ヲ置キ、伊勢ノ鈴鹿越前ノ愛發ト並立テ、三關ト稱ス、桓武帝ニ至リ、其徒ニ中外ヲ隔絶スルヲ以テ、是ヲ廢ス、然レ氏關下ノ平原ナルヲ以テ、今猶此稱アリ、藤川ハ

伊吹山ヨリ出テ、原中ヲ流レ、藤子川ト呼ブ、下流ハ即、牧田川ナリ、元正帝、多度山ニ幸シ、醴泉ヲ賞覽シテ、名ヲ養老ト賜ヒ、遂ニ養老ヲ其年ニ號ス、瀑布ノ高、僅七丈餘ニシテ、甚大ナラザルモ、山中頗幽清ノ地タリ、此山ハ近江ニ接シ、靈山ノ東面ニ當リテ、別ニ一帯ノ小山脈ヲナシテ、南ニ亘リ、伊勢ノ多度山ニ連ル、飛驒ハ三郡ニシテ、大野、吉城、益田ト云フ、西隅ノ郷村ハ、白川沿岸ノ地ニシテ、地勢僻絶、其相

統屬スルヲナキヲ以テ、假ニ大原郡ヲ置キ、是
ヲ區別セシガ、近時再大野郡ニ屬スト云フ、
四境共ニ大岳峻嶺、相圍ミテ、國中モ山深ク谷幽
ナリ、謂ユル全國ニ亘ル、大山脈ノ中間ニ在ル國
ニシテ、氣候特ニ寒ク、五月花咲キ、七月麥熟ス、東
南西ノ三面ハ、信濃美濃ニ包マレ、其往來スル坂
路ハ、何レモ險シキ峠ニシテ、三冬ハ冰雪凝リ結
ビテ、人馬ノ通ゼザルヲアリ、而テ水流ハ、多ク北
ニ流レテ越中ニ入ル、故ニ地勢ハ、東山ニ背キ北
陸ニ向ヒタリ、

高山ハ國ノ中央ナル都會ナリ、此間ハ地形平坦
ニシテ、宮川ニ大橋ヲ架ク、街市繁盛ナルヲ、實ニ
山間ノ一大邑タリ、天正中、金森氏國中ノ諸族ヲ
平ケ、三木氏ノ舊規ニ因リテ、城ヲ此地ニ築ク、其
封ヲ移スニ及ビテ、遂ニ廢墟トナル、位山ハ其南
ニ峙チ、滿山ノ位樹ニシテ、其昔ハ例ニ御笏ノ用
ニ供ス、仍テ此名アリ、其上ヲ川上岳トナシ、其西
ヲ龍峯トナス、而テ東ニ亘リテハ、一帶山脈相連
リ、地勢ヲ限リテ、乘鞍岳ノ麓ニ達ス、國中ノ諸川、
是ヲ以テ其流ヲ異ニス、

乘鞍岳ハ、東境ニ跨ル大岳ニシテ、國中第一ノ高山ナリ、硫黄岳、槍岳、笠岳、中俣、北俣、兩岳等並列シテ、越中ノ立山ニ連ル、總テ噴火山ニシテ、山頂多ク硫烟ヲ吐ク、正南ニ一大山アリ、其高ハ乘鞍ト相均シ、是ヲ木曾御岳トナス、西境ハ中山、鷲岳等美濃ノ郡上ト山脈ヲ分チ、大日岳、殊ニ高峻ナリ、白木峰ハ上下兩峯アリ、相並ビテ正北ノ國境ニ聳ユ、宮川、白川ノ兩川ハ、峯ノ左右ヲ抱キテ、共ニ越中ニ入り、宮川ヲ神通川トナシ、白川ヲ射水川トナス、

宮川ハ源ヲ位山ニ發ス、川上川ハ西ヨリ來リ、公賀川ハ東ヨリ來ル、共ニ高山ニ會ヒテ、漸大川ヲナシ、古川ニ至リテ、荒城川ヲ并セ、下流又、小鳥川ヲ并セ、曲屈シテ、一谷ニ至リ、高原川ト合ス、是ヲ國ノ北境トナス、高原川ハ乘鞍岳ノ北陰ニ出テ、雙六川ヲ并セ、舟津ヲ過キテ、又跡津川ヲ并ス、共ニ東境ノ連岳ニ出ダル者ニシテ、上流ニ温泉多シ、○白川ハ西隅ノ溪谷相集リ、一川ヲナス、沿岸ノ村邑ハ、白川郷ト呼ビ、地勢風俗、自別境ヲナス、其地ハ加賀越前ノ後背ニ當リ、白山高ク、其

西ニ聳エ立ツ、三方^{サンハツ}崩^{ツレ}及、笈岳^{アシノケ}、劍岳^{ケンノケ}ノ諸峻山、相並
ビテ、道路ノ通ゼサル處トス、○總テ此國ノ鄉村
ハ、山間ニ夾レ、悉河岸ニ沿フ者ニシテ、荒城郷、高
原郷等ノ稱アリ、舟津古川ノ兩地ハ、高山ニ次ク
街市ニテ、舟津近傍モ亦少ク平坦ナリ、○益田郡
ハ乘鞍岳ノ西、御岳ノ北ニアリテ、兩岳ヨリ出ヅ
ル水流ハ、相集リテ山間ヲ環リ流レ、遂ニ南ニ赴
キテ一河ヲナス、郡名ヲ以テ是ヲ呼ブ、沿岸ニ温
泉多ク出ヅ、湯島ハ浴室殊ニ盛ナリ、其流ハ川上
山ヨリ来ル、馬瀬川ト共ニ美濃ニ入ル、飛驒川是

ナリ、
抑此國ハ、南朝ノ時、妹小路家綱、國司ノ任ヲ受ケ、
杉崎城ニ居リ、柳御所ト稱ス、相傳フル十餘世、凡
南朝ノ國司、其久シキヲ得ル者、伊勢ト兩國ノ之、
天正初年ニ至リ、三木氏ニ滅サル、城址猶古川ノ
北ニ存ス、三木氏ハ應永中ヨリ、世々國ノ南半ヲ
領シ、其五世ヲ久安ト云フ、美濃ノ齋藤氏ト婚ヲ
結ビ、越後ノ上杉氏ト好ヲ通ジ、遂ニ國司ヲ亡シ
テ、其姓ヲ冒シ、江馬氏ヲ滅シテ、高原郷ヲ取リ、威
ヲ近隣ニ振フ、其盛ナルニ當リテハ、甲斐ノ武田

モ、亦其志ヲ得ザルニ至ルト云フ、
藤橋、籠渡ハ有名ナル奇險ノ地ナリ、此國中ノ川
々ハ、何レモ兩岸絶壁相通リ、底深クシテ水流ヲ
見ズ、其舟楫ニ論ナク、材木巨大ナルモ、梓筏ヲ下
ス^レ能ハズ、故ニ往々橋航ヲ施ス可カラザル處
アリ、藤橋ハ舟津ニアリテ、高原川ニ架ク、其製ハ
藤蔓ヲ編ミテ、兩岸ノ間ニ張ル、長三十六丈、幅三
尺計、下ニ一柱ヲ用ヰズ、其狀、一匹練ヲ半空ニ晒
スガ如シ、籠渡ハ一谷ニアリ、大繩ヲ兩岸ノ巨木
ニ繫ギ、駕籠ヲ其繩ニ懸ケ、人ヲ其中ニ盛リ、更ニ

細繩ヲ籠ニ結ビ、岸上ノ人互ニ引キテ以テ行人
ヲ通ス、岸ノ相隔タル十二丈計、其中途ニ至リテ
ハ、駕籠次第ニ低下シテ、水面ヲ去ル僅ニ咫尺ニ
至ルト云フ、近來道路修繕ノ利ヲ興シ、此ニ處
如キハ、其官道ニ當ルヲ以テ板橋ニ改造セリ、然
レ氏白川、大牧等ハ、猶籠渡ヲ用ヰタリ、
信濃ハ、伊奈諏訪筑摩安曇更科水内高井埴科
小縣佐久別十郡アリ、
東海北陸兩道ノ間ニ横ハル大國ニシテ、我國内
第十ノ高地ナリ、其四境ハ十國ニ接シ、南北六十

里計、東西是ニ半ス、其土地廣大ナルヲ、全國中ニ
モ多ク其比ヲ見ザレ氏、山脈環リ亘リテ、國內ヲ
分チ限リ、其間、各一國ノ如キ者ヲナス、土俗其地
勢ノ平坦ナルヲ以テ、是ヲ平ト呼ズ、南ハ即其昔
諏訪國ヲ置レシ地ニテ、土人今猶國ヲ以テ是ヲ
呼ズ、西ヲ松本平ト稱シ、平坦十里ニ亘ル、北ヲ善
光寺平ト云フ、即川中島四郡ノ地ニシテ、地勢東
北ニ向ヒテ、上野越後ノ間ニ衝キ入ル、東ヲ佐久
平ト云フ、上野甲斐ノ間ニ夾ル、而テ木曾ハ別ニ
一郷タリ、

和^ワ田^ノ峠^ノハ登降五里、山道中ノ大嶺ニシテ、其峻險
ナルハ箱根、碓氷ノ上ニ出ズ、此山ヲ國ノ中央
トナシ、是ヨリ山脈分レテ三方ニ亘ル、東ニ大門
峠アリ、北ニ保福寺峠アリ、西南ヲ鹽尻峠トナス、
立^タ科^ノ山^ノハ大門峠ノ上ニ峙チ、其東ヨリ八峯並列
シテ、南ニ赴ク者ハ甲斐ニ跨ル八岳ニシテ、其脈
直ニ金峯山ニ連ル、○駒岳ハ峯巒峻秀ニシテ、風
越^コ山^ノト相並ズ、其脈ハ鹽尻峠ヨリ起ル、西南ニ亘
リテ美濃、三河ノ間ニ入ル、○保福寺峠ハ南ニ武
石^シ峠^ノアリ、北ニ室賀^シ峠^ノアリ、山脈ノ北端ヲ姨捨山

トナス、東面ハ千曲川ヲ隔テ、鏡臺山ト相對シテ
山峽ヲ夾ム、西陰ニ大嶺アリ、猿馬場ト云フ、群山
相連リ、犀川ニ跨リテ北ニ赴キ、越中、越後ノ間ニ
接ス、
全國ノ水流、兩分シテ南北ニ各流ス、諏訪木曾ハ
東海ニ注キ、其他ハ相集リテ北陸ニ入ル、犀川ハ
駒岳ニ出テ、松本平ノ中央ヲ貫キ、梓川、高瀬川ヲ
并セ、北ニ赴キテ、兩山ノ峽ニ入ル數里、斷岸相逼
リ、僅ニ舟行ヲ通セシガ、往年地震ノ時、岸崩レテ
川塞ル、近來開鑿シテ再、舊ニ復スト云フ、川流ハ

東ニ轉ジテ山間ヲ出テ、又、平地ヲ流レ、川中島ニ
至リテ、千曲川ニ合ス、其流、二十里ニ及ブ、千曲ハ
又、千隈トモ云フ、源ヲ金峯山ニ發シ、山間ヲ北下
シテ平原ニ出ヅ、是ヲ佐久平トナス、西ニ赴キ、小
諸上田ヲ過ギ、姨捨山ノ麓ヲ北流シ、又、東ニ轉ジ、
松代ニ至リテ、直ニ北ニ流レ、犀川ニ會ス、其流、二
十五里、二川、尤大ナリ、茲ニ至リ相合ヒテ、益、大ヲ
致シ、平野ノ間ヲ流ル、十里計、飯山ヲ過ギ、漸、兩
山ノ峽ニ入り、數里ニシテ大瀧ニ至ル、兩岸高ク
過リ、河中、岩石多ク、峙ツ、國境ハ大山脈、亘リ限リ

テ、河流ノ注ク可キナシ、故ニ山峽ヲ斷テ貫キテ
以テ下ル、是ニ加フルニ越後ハ、地勢漸低ニ向フ、
故ニ水高ヨリ注キ流レ、其勢瀑布ノ如シ、舟運ハ
松代、飯山ノ間、常ニ相上下ス、近來更ニ上流ニ沂
リテ上田ニ達ス、其間七八里、然レ氏僅ニ小舟ヲ
通スルノミ、犀川ハ松本ヨリ既ニ其便アリテ、水
程十餘里ノ遠キニ及ブト云フ、
養老五年、始テ諏訪國ヲ置キ、後十年、舊ニ復ス、此
地ハ北ニ和田峠アリ、東ニ八岳アリ、西ハ鹽尻峠
ノ山脈相連ル、中間ニ湖水アリ、周回五里、呼ズニ

郡名ヲ以テス、謂ユル諏訪湖、是ノリ、此湖ハ嚴寒
ノ時ハ、冰凍リテ、人馬共ニ冰上ヲ往来ス、諏訪上
下神社、又温泉ノ浴場アリ、高島城ハ、東岸ニ臨ミ、
諏訪氏、世々茲ニ居ル、其甲斐ニ通スルノ處ハ、地
漸平坦ナリ、中間ヲ金澤トナス、武田信玄ノ兵ヲ
此國ニ出ス、實ニ此路ヨリス、遂ニ諏訪氏ヲ滅シ、
其女ヲ納レ、子勝頼ヲ生ム、勝頼ノ亡ブルヤ、其弟
仁科信盛、獨高遠城ニ據リテ、遂ニ奮死ス、其城、今
金澤ノ南六里ニアリ、山中ノ一邑タリ、溪流相集
リテ、西ニ下リ、天龍川ニ合ス、是ヲ三峯川ト云フ、

○天龍川ハ、湖ヨリ出テ、南ニ流ル、急激直下二
十餘里ニシテ速江ニ入ル、川ノ左右ヲ伊奈郡ト
ナス、東南ハ甲斐、速江ノ背ニ當リ、連岳重叠シテ、
道路通ゼザル十餘里、西北ハ駒岳、風越ノ山脈相
連リテ、美濃ノ惠那岳ニ接ス、其西南ノ一隅、僅ニ
山路ヲ三河ニ通ズ、河岸ノ村邑ハ、飯田ヲ以テ、小
都會トナス、是ヨリ始テ舟楫ノ利アリ、此地、峽間
ニアレ、凡南ニ出ヅルヲ以テ、季候、最温暖ニシテ、
春色ノ来ル、木曾、松本地方ヨリ、旬餘ヲ早クスト
云フ、

木曾ハ、岐蘇トモ云フ、御岳高ク、聳エテ、飛彈ニ跨
リ、其秀峻ナルヲ、殆富士山ニ亞ク、四時、冰雪アリ、
駒岳南ニ峙チテ、其高ヲ争フ、數峯連續シテ、伊奈
ト腹背ヲ分ツ、其兩岳ノ間ヲ木曾山中ト稱ス、東
ハ鳥居峠ヨリ、西ハ^{トモカリ}古曲峠ニ至ル、二十里、村里
悉峽間ニアリ、山ニ據リ、谷ニ臨ミ、氣候寒烈ニシ
テ、田畝少ク、米穀悉他方ヨリ輸入ス、道路ハ山腹
ヲ繞リ、崖縁ニ懸リ、斷岸ノ處ハ、^{ハナ}棧道ヲ設ク、近來、
是ヲ改修スト、雖モ、猶峻路險阪多シ、木曾川ハ、鳥
居峠ノ北ナル^{ヲキ}萩曾ヨリ出テ、^ミ宮越福島ヲ過ギ、御

岳川ト合ヒ、水勢頗大ナリ、其流タルヤ、常ニ岩壁ニ逼ラレテ、高ヨリ低ニ注グ、河中ハ、怪石、危岩、相觸レ、急激怒號シ、或ハ懸リテ瀧トナリ、或ハ洄リテ淵トナル、其間ニ寐覺床ト稱スル處アリ、一巨石、水ヲ束ネ、狭キ一丈餘、其長、五六十間、水色、藍ノ如シ、其左右ハ、岩石、河中ニ横リ、實ニ山中ノ一勝地タリ、其他、小野瀑布アリ、亦奇觀トス、昔源義仲此間ニ生長シ、兵ヲ擧グルニ及ビテ、城ヲ宮腰ニ構フ、今井樋口等諸臣ノ居跡、共ニ各地ニ存ス、義仲ノ後裔、再此地ニ據リ、木曾氏ヲ稱ス、數世ノ孫

義康ニ至リ、福島ニ居リ、其子義昌相繼ギテ、屢武田氏ト戦ヒ、天正十年大ニ之ヲ鳥居峠ニ破ル、抑山中ノ地ハ、元美濃ニ屬シ、道路ノ通ゼザル處ナリシガ、和銅六年、始テ山路ヲ開キテ、兩國ノ往來ヲ通ズ、其後百六十七年ヲ經テ、元慶三年、其國府ト隔タルノ速キヲ以テ、割キテ當國ニ屬ス、ト云フ、然レ氏土人、尚別境ヲ以テ自居レリ、松本平ハ、桔梗原^ガ、其南ニ連リ、鹽尻峠ヲ以テ諏訪ニ界シ、鳥居峠ヲ以テ木曾ニ接ス、北ハ、仇坂^{アツカ}、立峠^{タツツ}等、相重リテ猿馬場ニ連ル、松本ノ城市、其中間ニ

アリ、故ニ名ク、東西ハ五六里計、其長ハ犀川ノ西ニ跨リ、十餘里ニレテ、池田、大町ノ二邑ニ及ブ、其奥ニ青木湖アリ、下流ヲ高瀬川トナス、○飛驒ノ乗鞍岳、正西ニ聳エ、山腹ニ白骨ノ温泉アリ、即梓川ノ源ナリ、穗高神明ノ諸岳ハ、笠岳、槍岳ト相並ブ、其西北ノ隅ニ當リテ、一高峯アリ、高ク連岳ノ上ニ秀ヅ、是ヲ越中ノ立山トナス、○此平ハ田野開ケテ村里相連レ、西境ノ連山、常ニ風雪ヲ吹キ、寒氣ノ烈シキハ、木曾飛驒ニ減ゼズ、松本ハ一方ノ都會ニシテ、人烟繁盛ナルヲ、國中ノ第一

リ、此城、元、深志ト呼ブ、正東ニ冠岳ヲ負ヒ、其陰ヲ保福寺峠トナス、西ニ犀川ヲ帯ビ、行舟常ニ下流ニ通ズ、小笠原氏、世々、茲ニ居リ、武田氏ト敵國トナリ、常ニ戦闘アリ、天文中、鹽尻峠ノ敗レヨリ、後、又、桔梗原ニ迎ヘ戦ヒテ、兵潰エ城陥リ、擧族悉、逃レテ越後ニ落チ延ビタリ、善光寺ハ、有名ノ佛閣ナルヲ以テ、此地ノ總稱タリ、地形、平坦ニレテ、四方、共ニ七八里ニ亘ル、國中ノ沃土ナリ、犀川、千曲川、相合ヒテ、川道、三又ヲナス、故ニ川中島ト云フ、其地勢、信濃、越後ノ中間ニ

アリ、壽永中、木曾義仲、城長茂ヲ茲ニ敗ル、其後村
上氏、葛尾城ニ居ル數世、更科、埴科以下四郡ヲ領
ス、武田氏ノ、鄰傍ヲ威服スルニ當リテ、義清、支
ル一能ハズレテ、越後ニ走ル、遂ニ武田、上杉ニ氏
ノ戰端トナリテ、互ニ四郡ノ地ヲ争フ數十戰、其
取大ナル者五回、是ヲ川中島ノ五戰ト稱ス、○葛
尾ノ城址ハ、松代ノ南ニアリ、其山ハ鏡臺山ト相
並ビ、其後ヲ地藏峠トナス、其脈連續シテ、東ニ亘
リ、四阿、白峯ノ連山トナリテ、北ニ赴キ、上野ノ境
ヲ限ル、山間ニ米子神湍ノ瀑布アリ、又山田、角間

ノ温泉、ルリ、濯湯尤顯ル、○戸隱山ハ一方ノ高山
大ニ、飯綱、黒姫ノ諸山、其東ニ峙テ、木戸、藥師ノ衆
岳、其西ニ秀テ、北陰ハ越後ノ妙高山、燒山ト相接
ス、黒姫ノ山麓ニ野尻沼アリ、其水北ニ流レテ、越
後ニ入り、關川ニ合ス、其他ノ溪流ハ、悉川中島ニ
會ス、○姨捨山ハ平野ノ正南ニ當リ、冠着ノ諸山
ト相並ズ、此山ハ看月ノ名所ニシテ、謂ユル更科
田、毎ノ月ナリ、鏡臺山ハ中秋ノ望夜ニ至リテ、新
月昇ル時、其山巔ニ出ヅ、因テ此名アリシト云、
淺間岳ハ有名ノ噴火山ニシテ、其名尤著シ、古ヨ

リ富士山ト並稱ス、其峯ハ上野ノ境ニ峙チ、山頂
常ニ硫烟ヲ出シ、又時トシテハ、山火ヲ吐キ、灰石
ヲ飛バスニアリ、故ニ山麓數里ノ地ハ悉赤土ニ
シテ、田畝ナク、樹木ナシ、是ヲ淺間ノ燒野ト云フ、
廣原、其南ニ連リ、四方四五里ノ間ニ亘ル者ヲ佐
久平ト呼ブ、西ハ千曲川ノ左右ニ沿ヒ、上田ニ達
ス、其間モ亦平坦ニシテ、上田原ハ、即村上義清ノ
敗績ヒシ處ナリ、上田ハ一都會ノ地ニシテ、北國
ノ品物多ク聚ル、北境ハ淺間ノ山脈相連リ、烏帽
子岳、其中ニ聳エ、西端ハ地藏峠ニ接シ、上田、松代

兩地ノ間ヲ限ル、西ハ立科、和田ノ諸山ニ包レ、ハ
岳、其南ニ列リ、甲斐ノ境ハ、群山重叠スル十里、金
峯最高ニ、其脈直ニ秩父山ニ接ス、此山々ハ、即海
山、兩道ノ中間ニ亘ル山脈ハ、由テ起ル所ナリ、蓋
淺間ノ山脈、南ニ走ル者、碓氷、荒船ノ諸山ニシテ、
上野ノ境ニ連リテ、關東ノ西隅ヲ限ル、甲武上、信
ノ界ハ、其集リ重ル處ニシテ、其直行スル者ハ、富
士山ニ接シ、折レテ西ニ赴ク者ハ、甲斐ヲ包ミテ、
駿遠參ノ北境ヲ限ル者トス、
上野ハ十四郡、利根、吾妻、碓氷、甘樂、片岡、多胡、緑

野群馬勢多山田名和佐位新田邑樂是なり
古ハ毛野ト稱シ下野ト一國ニシテ共ニ關東ニ
屬ス此國ハ八州ノ西北隅ニ居レバ國境ハ深山
重嶺ヲ負フト雖凡東南ニ亘リテハ地勢平坦ニ
シテ直ニ武藏下總下野ニ接シ河流ノ外復境界
ナシ○赤城榛名ノ兩山相並ビテ國ノ中央ニ聳
エ各南向シテ屹然對立ス是ヲ山野ノ限トス
赤城山ハ山勢頗高キモ甚峻絶ナラズ南麓平ニ
延ビ其間三里計山頂ヲ地藏峠ト云フ榛名山ハ
其西ニ峙チテ別ニ一山ヲナス數峯相重リ其高

キ者ヲ相馬山ト云フ山上ニ小湖アリ其傍ハ奇
石惟巖多ク峙チ西溪ノ峽最奇ナリ○兩山ノ陰
ハ利根吾妻ノ二郡ニシテ東ハ下野ノ白根山庚
申山ノ背ニ當リ北ハ烏帽子岳文珠山駒岳等ノ
諸岳相連ル其間ニ尾瀨沼アリ是ヲ岩代ノ境ト
ナス蓋奥羽ノ間ヲ亘リ来ル大山脈此際ヨリ折
レテ西ニ赴ク故ニ峯巒殊ニ重疊セリ利根川實
ニ源ヲ此中ニ發ス山脈ノ中ニ三國峙アリ其頂
越後信濃ニ跨ル故ニ此名アリ其路險シキヲ數
里ナレ氏北國ノ官道タルヲ以テ人馬常ニ往来

地理要略 卷之二 三

ス、雪中ハ往々、行路ヲ絶ツニ至ルト云フ、西ハ信濃ニ包レテ、白根、吾妻ノ諸山相限ルハ、四阿、白峯ト同名異字ノ之、吾妻川ハ萬座、地藏山、田ノ諸水ヲ集メ、山谷ノ間ヲ東ニ下ル、利根川ノ一源タリ、村里、悉、川岸ニアリ、其淺間山ノ北陰ナルヲ以テ、温泉、甚、多ク、草津、最、盛ナリ、四萬、殊ニ良泉タリ、其他、澤、渡、河、原等アリ、榛名ノ北麓ナル伊香保モ、亦良湯タリ、利根川ハ、文珠山ニ出ヅル者ヲ正源トナス、重山ノ峽間ヲ南ニ下リ、赤谷川ヲ并セ、沼田ニ至リ、又

片科川ヲ并ス、兩岸高ク迫リ、屈曲環流レテ、水勢急激ナリ、漸下リテ、白井ニ至リ、吾妻川ニ合ヒテ、其流、頗、大ナリ、且、此地ハ、榛名、赤城兩山ノ麓、互ニ絶ユル處ニシテ、是ヨリ山圍、始テ解ケ、前橋ヲ過ギ直ニ平野ノ間ヲ貫キ、南ニ下リテ、武藏ノ境ヲ衝ク、烏川、西ヨリ来リ會シ、共ニ折レテ東ニ赴キ、川流、益、大ナリ、國境ヲ限リ流ル、十餘里ニシテ、下總ノ境ニ至リ、渡瀨川ニ合ヒテ、遂ニ兩國ノ間ニ入ル、源ヨリ茲ニ至ル凡三十里、是ヲ上利根川ト云フ、○白井ハ上杉憲實ノ城趾ナリ、其足利

氏ニ代リテ、關東管領タルヤ、數世相傳ヘテ憲政ニ至ル、北條氏ニ攻メ陷レテ、越後ニ走り、長尾氏ノ助ヲ得テ、厩橋等數城ヲ復スレ、遂ニ敗亡シテ、地武田氏ニ屬ス、徳川氏ノ甲斐、信濃ヲ得ルニ及ビテ、關東ヲ以テ、北條氏ニ付シ、互ニ其侵地ヲ返ス、獨、真田昌幸、沼田ヲ守リテ肯ゼズ、其地タルヤ、八州第一ノ險要ニシテ、攻守三年、遂ニ抜クヲ能ハズト云フ、妙義山ミヨリキ又、白雲山ハクワンザント云フ、金洞、金雞ノ二山ト相並ビテ、平野ノ正西ニ聳エタリ、三山悉、岩石ニシテ、

蠟燭岩、大日峯等ノ奇絶ナルヲ、殆、名状スベカラズ、中ニモ金洞ノ石門ノ如キ、大小四箇、最、奇觀タリ、山後、又一、奇山アリ、其形ヲ以テ荒船ト呼ズ、其山ハ國境ニ亘リ、南ニ赴キ、信濃、武藏ノ重山中ニ入ル、其隅ヲ三國山ト云フ、○碓氷峠、嶮峻、三里、信濃ニ跨リ、淺間岳ノ脈ヲ承ケテ、南ハ荒船山ニ連ル、此山ハ箱根山ト共ニ、海山、兩道ノ要路ニシテ、亦、坂東ノ稱ノ起ル所ナリ、碓氷川ハ山中ヨリ出テ、其瀨、淺クシテ、流、頗、急ナリ、妙義山ノ北麓ヲ東下シ、安中ヲ過ギ、郡中ノ水ヲ集メ、高崎ニ至リテ

地誌 栗田 卷之二 五

烏川ニ入ル、蕪川、神流川、共ニ甘樂ノ轉稱ニシテ、其源ヲ西境連山ニ發シ、各郡中ノ溪流ヲ、分チ并セテ、東ニ流レ、亦、烏川ニ入ル、蕪川ハ富岡ヲ過ギテ、行舟ノ利アリ、神流ハ武藏ノ境ニ沿ヒテ流ル、平時ハ水流ニ乏シク、雨後ノ水路ナルノミ、一帯ノ長岡、妙義山ノ麓ヨリ起リテ、東ニ連ル六七里、兩郡ノ界ヲ亘リ、高崎ノ南ニ至リテ盡ク、是ヲ横野原ト云フ、高崎ハ繁盛ナル城市ニシテ、前橋ト相隔テル三里、各一都會ヲナス、前橋ハ、即、子廐橋ノ改稱ニ係レリ、

烏川モ亦利根川ノ一源ナリ、碓氷山嶺ノ北ヨリ来リ、高崎ノ東ニ至リ、始テ舟楫ヲ通ズ、東南ニ流ヒ、シマ新町、五料ヲ過ク、是ヲ國境トナス、○渡瀨川ハ、庚申山ノ前面ヨリ来リ、西南ニ下リ、坂東川ト云フ、山谷ヲ環流シ、キツク桐生川ヲ并セテ、東ニ轉ジ、分レテ二派トナリ、本流ハ下野ニ入ル、支流、再分レ、一ハ南下シテ、直ニ利根川ニ入リ、一ハ國境ニ沿ヒテ、又、本流ト合ヒ、南ニ環リ、下總ノ境ヲ流ル、故ニ界川ト云フ、此川ハ、佐野、中川ト稱シ、毛野ヲ分國スル時ニ、其上下ノ界ヲ定マル者ニシテ、亦、利根川

源流ノ一タリ、
太田、館林ノ地ハ、國ノ東南隅ニシテ、渡瀬、利根ノ
河間ニ夾リ、地勢狭長、且卑濕ノ處、沼澤多シ、多田
良沼、板倉沼等アリ、館林モ亦一都會ニシテ、太田
ハ、新田義貞ノ義旗ヲ揚グル處ナリ、城跡今猶存
シテ金山ト云フ、抑此國ハ、養蠶ノ業特ニ盛ナリ、
郡村ノ間、桑田相連ル、近来富岡ニ製絲場ヲ構ヘ、
新ニ器械ヲ備ヘテ、其業極テ盛大ヲ盡ス、而テ桐
生ハ、織物ヲ出ス、歳月已ニ久シ、上州織ノ著名
ナルハ、實ニ此地ヲ以テナリ、

下野ハ、足利、梁田、安蘇、都賀、寒川、河内、芳賀、鹽谷、
那須ノ九郡ナリ、
西北ハ、連岳重立シテ、國境ニ峙ツ、東ニ高原アリ、
南ニ平野アリ、高原ノ水ハ、集リテ東流ス、常陸ノ
中川、是ナリ、平野ノ水ハ、悉南ニ流ル、宇津宮、其中
央ニ當リ、東ハ、絹川、是ヲ并セテ、常陸下總ノ間ニ
入り、末ハ、利根川ニ會ス、亦其源タリ、思川ハ、以
西ノ數流ト合ヒ、上野ノ境ニ至リ、渡瀬川ニ入ル、
黒髮山高ク聳エテ、連岳ノ中位ニ秀デタリ、是ヲ
男體山ト云フ、如峯山、其北ニ峙ツ、是ヲ女體山ト

ナス、其他、大真子、小真子ノ諸山相重リテ、後陰ハ
岩代、上野ニ跨レリ、山中ハ湖沼、瀑布、各數十アリ、
共ニ奇景勝地ニシテ、湖ノ大ナル者ハ、長、三里、幅
ハ是ニ半ス、中禪寺湖ト呼ブ、其水、南ニ決シテ、華
嚴瀧トナル、飛流、七十五丈、其雄壯ナルヲ、瀑布中
ノ冠トシ、下流ヲ大谷川ト云フ、龍頭裏見、霧降、索
麴等ノ瀑布、是ニ次ク、赤沼アリ、温泉、其傍ニ出ヅ、
五色沼アリ、五箇、水色ヲ異ニス、○山麓ヲ日光ト
ナス、東照神社ノアル處ニシテ、廣祠ノ結構ハ、金
碧焜耀、實ニ天下ノ美麗ヲ極メタリ、大谷川ヲ隔

テ、街市アリ、鉢石ト云フ、宇津宮ト相距ル大道
九里、行杉老鬱ナル、亦行路ノ一美觀タリ、○庚申
山ハ、白根ノ右ニ立チ、南ニ足尾銅山アリ、東ニ古
峯原アリ、深山中ノ岩山ニシテ、石橋、洞門等ノ奇
ナルヲ、殆妙義、榛名ノ上ニ出ヅ、重山一帯、其南ニ
連リテ、上野ノ境ニ亘ル者ヲ、總稱シテ安蘇山ト
云フ、其脈、盡クル處ヲ足利トナス、即高氏ノ郷土
ニシテ、此地、古ヨリ學校アリ、相傳フ、小野篁ノ設
ケニ處リ、其後、上杉憲實、書籍ヲ納レ、土田ヲ置キ、
以テ生徒ヲ養フ、今猶存ス、此地方ハ、上野ノ太田

館林ト相接シ、渡瀬川、西ヨリ来リ、兩派トナリ其
間ニ分流ス、
那須岳ハ、五峯屏列シテ、南ニ向ヒ、其背ヲ岩代ト
ナス、鹽原山、其西ニ峙チ、相並ビテ以テ高原ノ北
ニ連ル、而テ東ヲ限ル者ハ、八溝山、磐城ノ隅ニ立
チ、其脈、南ニ亘リテ、鳥子雞足ノ兩山ニ連リ、常陸
ノ境ヲ限リ、佛頂山ニ至リテ盡ク、○高原ハ、那須
野鹽谷原ノ二野ニ分レ、相連リテ四方、十餘里ニ
亘ル、大率、荒蕪シテ、開墾ヲ得ルノ處甚稀ナリ、且
寒風烈シク、道路、高低多ク、其官道ニ當ル處ハ、南

ハ、氏家ヨリ北境ニ至ルマデ、行程十三里、其間ニ
十三坂アリト云フ、其間ニ大田原、黒羽、鳥山、及、佐
久山、喜連川等ノ城邑アリ、又、那須、鹽原、共ニ温泉
アリテ、来リ浴スル者、常ニ多シ、那須ハ舊地ニシ
テ殊ニ盛ナリ、鹽原ヨリ西南ニ續キタル峯ヲ、高
原山ト云フ、中川、絹川ハ此山ヲ以テ左右ニ分レ
流ル、群山、其西ニ重リテ、黒髮山ニ接ス、○箒川ハ
母来トモ云フ、鹽原山中ヨリ来リ、佐久山ノ北ヲ
流ル、佐比川ハ源ヲ山陰ニ發シ、大田原ヲ過ク、二
川相合ヒテ東ニ赴キ、中川ニ入ル、中川ハ源流ヲ

那須川トナス、岳ヨリ出テ、余笹川、黒川ヲ并セ、
黒羽ヲ過ギ、南ニ下リ、帯川ト合ヒテ、水勢漸、大ナ
リ、烏山ニ至リ、狐川ヲ并ス、是ヨリ始テ舟運アリ
鳥子、雞足兩山ノ峽間ヲ貫キ出ヅ、中川ハ即、那珂
川ナリ、
宇津宮ハ、奥羽、關東ノ要路ニ當リ、城市ノ繁盛ナ
ル、東京以北ノ大都會タリ、土人ハ宮トノミ唱
フ、此地ハ、宇津宮氏、世々、茲ニ居リ、足利氏ノ時、那
須、小山二氏、及、常陸ノ佐竹氏、下總ノ千葉、結城兩
氏等ト、共ニ關東ハ、館ト稱セリ、○絹田ハ、高原山

ノ奥ヨリ来リ、大谷川ヲ并セ、其流頗、急駿ナリ、阿
久津ニ至リ、始テ舟運アリ、此川ハ、長流三十里、其
當國第一ノ川ナレバ、古ハ、毛野川ト云ヒシトゾ、
田川ハ、宮ノ市中ヲ流レ、下總ノ境ニ入り相會ス、
別ニ、小貝川アリ、佛頂山ヨリ出テ、西ニ流ル、五行
川氏家ノ北ヨリ来リ、真岡ヲ過キテ、相共ニ常陸
ニ入ル、是ヲ平野ノ東境トナス、思川ハ、上流ヲ小
倉川ト云フ、古峯原ニ出テ、壬生ニテ黒川ヲ并セ、
稍下リ、姿川ニ合ヒ、小山ヲ過キ、出流山ヨリ出ツ
ル、出流澤及、赤間沼ノ下流ト相合ス、是ノ國境ト

ナス。○出流山ハ、太平岩船ノ諸山ト、安蘇山ノ前
面ニ列リテ、平野ノ西境ニ並ズ、是ヨリ東南ハ、地
勢下總ト相交リ、直ニ八州ノ平野ニ連リ、遠望數
十里、渺トシテ、其際ヲ見ズ、坂東太郎、其間ニ横流
シ、正東ハ筑波ノ雙峯、空濶ノ間ニ聳エタリ、
近江晒、美濃紙、國名ヲ以テ是ヲ呼ブ、其品ノ良ニ
シテ、其業ノ盛ナル可キナリ、晒布ハ、野洲河
原ニ於テ製造スル者、最夥シ、紙ハ、其品十八種アリ、
牧川、藪川等、上流沿岸ノ地ハ、村里皆是ヲ業ト
ス、琵琶湖ノ産ハ、源五郎鮒ヲ第一トナシ、鯉ハ、勢

多川ヲ良品ト稱ス、野洲川ノ鮠魚モ世ノ賞美ス
ル處タリ、信樂ノ茶ハ、宇治ト并稱ス、又陶器ヲ製
造シテ、古來名品ノ稱アリ、政所土山モ、亦多ク茶
ヲ産ス、其他、高宮生^{キコラ}平、八幡蚊屋、沖島疊表、高島硯
伊吹艾、大津算盤、水口細工等、共ニ有用ノ佳品タ
リ、而テ長濱ノ縮緬、其窠善美ナル者、世ニ濱縮緬
ト呼ブ、羽二重、天鷲絨モ、此地ノ良品タリ、美濃ハ、
米、紙ノ外、其品盛大ナラズ、岐阜絹、曾代糸、實ニ其
中ノ良タリ、金生山ノ更^サ紗^ナ蠟石ハ、燈籠水盤ノ大
香合、印籠ノ細各種ノ製造アリ、關ノ良劍ヲ鍛冶

スルハ世ノ普ク知ル所ニシテ、真桑瓜、蜂屋材、養
老酒、土岐焼、干大根等、其名亦高シ、長柄川ノ鮎其
大尺ニ過グ、下流ハ、合渡ノ鱒、洲股ノ鯉、共ニ美味
タリ、飛驒ハ材木、獸皮、其有益ナル者ナリ、金、及銅
鉛、其利用アル者ナリ、硫黄、炭酸、礬石ハ、其良能ナ
ル者ナリ、蠟、漆、茶、紙モ亦其必用ナル者ナリ、高山
一位細工ハ、即位山産スル所、而テ養蠶ノ業ハ、白
川郷ヲ最盛ナル者トナス、諏訪平、飯田、椀、松本、絞
上田、瀧、仁科、冰餅等、信濃ノ名産ナリ、上田、松代地
方ハ、養蠶尤盛ニシテ、生糸中ノ最上品ヲ産ス、種

紙、真綿ノ製、白、七子、白紬ノ織物等アリ、其蕎麥ノ
美ナルハ、諸方ノ共ニ賞味スル所ナリ、石腦油、石
綿等、近來、發見スル者多シ、木曾山中ハ、飛驒ニ接
シ、獸皮、材木ヲ出ス、最、檜材ニ富ム、乾粟、串柿、干瓢
岩茸等ハ、即、山國ノ産ニシテ、各湖諸川ノ産スル、
鯉、鮎、鮎、鱒ハ、又、海ナキ國ノ生鮮タリ、兩野ハ、地勢
其趣ヲ異ニシ、平野遠ク開クレド、山間ハ、温泉多
クシテ、硫黄、明礬ヲ出ス、足尾ノ銅、草津ノ石炭、沼
田、那須ハ、多ク烟草ヲ植ウ、日光ノ蠟石、人參、及漆
器、蕃椒、悉、山谷ノ産物タリ、那須ノ大方紙、荒野ノ

佳品ニテ、野州麻ト稱スル者ハ、椽木近方ヲ良ト
ス、足利ノ木綿、伊勢崎ノ太織、共ニ良産ナレド、
真岡木綿ノ精美ヲ極ムルニ及バズ、而テ、桐生ノ
織物、實ニ盛大ニシテ、武蔵ノ八王子、五日市ト相
對スレド、縮緬、綾、錦、絨、精好ノ諸品、獨、此地ヲ推
ス、故ニ平野ノ間ハ、桑田相望ミ、村々蠶桑ノ業ニ
就カザル者ナシ、富岡ノ製糸場、實ニ壯大ナルヲ
極ム、其上州織ノ名、殆、全國ニ冠タルハ、事、真ニ虚
シカラザルナリ、

奥羽全圖

奥羽

明治元年十二月、詔^シ曰、奥^ヲ羽^ヲ兩國ハ、曠漠僻遠
 ノ地ニシテ、太古^{ヨリ}、教化^ハ洽^カク敷^キ及^シテ、難^シク令^シ陸
 奥^ヲ磐城、岩代、陸前、陸中、陸奥^ノ五國ニ出^テ羽^ヲ羽
 前羽後ノ二國ニ分^シ國^シ、厚^ク風俗移易、人民撫育
 ノ道ヲ盡^サントス、蓋^シ其地ハ、東西ニ海ヲ受^ケ、
 北端ハ、兩岬並出^テ、一ノ内海ヲ抱^キテ、北海道ト
 海峡ヲ夾^ム、中央ハ、大山脈相列^リ、最北ヨリ起^リ、
 直ニ南ニ亘^リテ、陸羽ノ分界ヲ為^シ、西ニ折^レ、越
 後ノ境ニ傍^トテ、又南ニ赴^キ、再西ニ亘^リテ、北陸

地理志
 卷之二
 奥羽

中山、兩道ノ間ニ入ル、即、全國ノ脊深ニシテ、高山
大岳相並ヒ、其形、馬鬣ノ如クニシテ、地勢ヲ左右
ニ別チタリ、且、悉、火山ノ脈ニ當リ、其麓ニハ温泉
多ク出ツ、時ニ或ハ山火ヲ噴キ、灰石ヲ飛スノ害
アリト云フ、磐城、陸前、陸中ノ三國ハ、東海ニ向フ、
即、太平洋ニシテ、其海岸、二百二十里、中央ニ牡鹿
岬突出シテ、其端ヲ金花山トナス、羽前、羽後ハ、
西ニ臨シテ、日本海ノ東ヲ限ル、其沿海ノ里程ハ、
東岸ノ半ニ及ス、男鹿島ハ、其中間ニ出ツル、一出
島ニシテ、寒風山、峙チタリ、陸奥ハ、兩地ノ端ニ當

ル、三面、海ヲ受ケテ、地勢、西斷ス、磐城ハ、海岸ニ沿
ヒテ、常陸ニ界シ、岩代ハ、山脈ニ包レテ、上野、下野
ニ接ス、其ニ關東ノ西北ヲ限レリ、○抑、此地ハ、上
世ヨリ、蝦夷ノ巢窟ニシテ、三陸ノ地ニ居ル者ヲ、
奥、蝦夷ト云ヒ、兩羽ノ間ニ在ル者ヲ、越、蝦夷ト呼
フ、而テ二岩ノ地ハ、早ク王化ニ屬ス、蓋、景行帝ノ
時、御諸、別、王、東山道都督トナリ、蝦夷ノ亂ヲ討ス、
酋帥等恐レ、悉、其地ヲ獻ス、成務帝、其地ニ就キテ、
國造ヲ定ム、中世ニ至リテ、石城、石背ノ二國ヲ置
ク、即、其地ナリ、元明帝、大ニ軍ヲ興シテ、奥越ノ二

夷ヲ征シ、始テ出羽國ヲ建ツ。是ヨリ其後、征討ヲ
事トスルヲ、大率、虚歲ナク、桓武帝、征夷ノ武略ヲ
奮ヒ、田村麻呂ヲ用ヰテ、誅伐多年、悉是ヲ海島ニ
逐ヒ、境土ヲ開キテ、海ノ盡頭ニ至ル迄、凡、一、百、年、
其間、夷地ヲ得レハ、城ヲ築キ、柵ヲ造リ、兵ヲ置キ
テ、以テ是ニ備フ、其全ク服従スルニ及ヒテ、一郡
トナス、然レ氏、或ハ叛キテ、夷地トナリ、又服レテ、
郡ヲ建ツ、國司ハ、專、其貢賦ヲ司リ、將軍常ニ屯シ
テ、其叛亂ヲ鎮壓ス、故ニ國ヲ置キテ以テ、其郡ヲ
統テルヲ能ハス、遂ニ此絶大人一國ヲ去ス、延喜

以時三、陸奥三廿六郡アリ、羽六十二郡アリ、而テ
今ハ陸奥ノ地ハ、糠部、津輕ノ二部タリ、其後、安倍
賴時父子、俘囚ヲ以テ、陸奥ノ衣川、厨川、鳥海等ノ
諸城ニ據リ、南ハ白河、關ヲ界トシ、北ハ率土濱ニ
至リ、郡郷ヲ横領ス、源賴義、討伐數年、遂ニ誅滅ニ
就ク、是ヲ前九年ノ役ト云フ、此役ヤ、出羽ノ夷囚、
清原武則、戦功アリ、仍テ大ニ郷土ヲ占ム、其後、子
姪相攻メ、武衡、家衡、共ニ出羽ノ金澤城ニ據ル、賴
義子義家、邦人藤原清衡等ヲ率ヰテ、是ヲ平ク、後
三年ノ役、是ナリ、既ニレテ、清衡、家ヲ興シ、安倍清

原二氏ノ舊規ニ依リ、平泉ニ居テ、兩國ヲ兼弁ス
ル。四世九十餘年、泰衡ニ至リ、源賴朝追討シテ、
是ヲ亡シ、其地ヲ以テ、葛西葦名伊達ノ數氏ニ分
チ與フ、世呼ヒテ、奥州征伐ト云フ、足利氏ノ時、更
ニ大崎氏、斯波氏、最上氏ヲ封ス、其後興亡相繼キ、
地大ニ兵強キ者六七氏、以テ近時ニ至ル、故ニ土
地ノ稱呼ハ、其所領ノ主氏ニ因リテ、各地方ノ唱
テリ、仙道七郡、庄内三郡ノ如キハ、其地ノ形勢ニ
依リ、會津岩城、最上、秋田ハ、其郡名ヲ以テス、南部
相馬ハ、祖先ノ舊地名タリ、葛西七郡、大崎五郡ハ、

其姓ニ用テ、而テ仙臺、米澤ハ、其城地名、
其領スル處、總稱トス、
岩代ハ、九郡ニシテ、會津、耶摩、大沼、河沼、岩瀨、安
積、安達、信夫、伊達ト云フ、
養老二年、陸奥ノ白河、石背、會津、安積、信夫ノ五郡
ヲ割キテ、石背國ヲ置ク、天平十三年、廢シテ陸奥
ニ并ス、明治元年、其地ヲ以テ、再此國ヲ建ツ、而テ
白河ヲ磐城ニ屬セリ、○會津分レテ、耶摩、大沼、河
沼ノ四郡トナル、安達ハ安積ヨリ分レ、伊達ハ信
夫分郡ニシテ、岩瀨ハ即石背ナリ、其白河、石川

ト相連リテ仙道ト云フ仙道ハ山道ト云フ仙道ハ山道ト云フ
會津ハ尚四郡ノ總稱タリ其四面ハ悉深山重嶺
ニシテ内地モ亦平地少シ北ハ羽前ニ西ハ越後
ニ圍マレ東ハ一帶ノ連山仙道ノ分界ニ直レリ
吾妻山ハ東西兩山アリ大山脈ノ陸羽ノ分界ヨ
リ西ニ折ル者此山其角ニ當レリ其陰ヲ羽前
ノ米澤トナス檜原峠赤崩山等相並ヒテ羽越ノ
間ニ接ス飯豊山特ニ高峻ニシテ重山ト上ニ秀
ツ其峯ハ大山脈ノ再南ニ赴ク處ノ隅ニシテ是
ヨリハ峯巒屏立シテ東北ノ兩道ヲ限ル御神樂

岳鬼面山等其中ニ峙チタリ山間ノ坂路北國ニ
通ル者六十里越八十里越ト云ス而テ鳥居峠
又正路トナス津川ヲ經テ新潟ニ達ス可シ其仙
道ト相往來スル路中山峙勢至堂峠アレ凡他三
面ニ比スレハ稍重峻ナラス南方ハ重山十餘里
山間ノ街市ヲ田島ト云フ其南ニ鶴沼アリ總テ
山谷ノ間ハ銀銅鐵ノ諸礦山アリ且多ク蠟漆樹
ヲ植エテ製造甚盛ナリ其南隅ナル甲子山朝日
山ハ那須岳ト腹背ヲナス下野ニ出ツル處ハ高
原鹽原兩山ノ陰ヲ藤原越ト云ス直ニ日光ニ達

ス上野ノ境ニ尾瀨沼アリ其水流レ出テ越後ノ境ニ沿ヒテ北ニ下ル只見川ト云フ溪谷ノ間ヲ屈曲シテ西ニ環リ鶴沼日橋ノ兩川ニ會シ揚川ト云ヒ津川ヲ過キテ未ハ北海ニ入ル是ヲ阿賀川トナス○若松ハ東方ノ一大要地タリ元黒川ト稱シ葦名氏世々ノ居城ナリシガ天正中伊達氏ノ為ニ亡サル豊臣氏更ニ蒲生氏郷ヲ封シテ東北ヲ鎮制シ更ニ城郭ヲ大ニシ始テ若松ト號ス後上杉氏ニ賜ク其亂ヲ為スニ及ヒテ徳川氏是ヲ米澤ニ遷シ後數氏ノ變遷アリ最後松平正

之ヲ封シ蒲生氏ノ舊規ニ依ラレムト云フ○若松ノ近地ハ稍平坦ニシテ東山天寧寺ノ温泉ハ繁華ナル處タリ大鹽ニ鹽井アリテ陸鹽ヲ製ス城北ニ湖水アリ東西四里其幅是ニ半ス下流ハ即日橋川ナリ湖北岸ニ猪苗代城アリ故ニ湖モ亦其名ヲ同クス磐梯山其上ニ峙チ其形富士ニ似タリ古會津山ト唱ヘシモノ是ナリ安達太郎山ハ二本松岳ト云フ吾妻山ノ南ニ聳エ高峻相次ク共ニ火山ニシテ山中ニ温泉アリ岳湯ト呼フ布引山其脈ヲ承ケテ中山勢至堂兩

峠ノ間ニ立チテ、甲子、朝日ノ諸山ニ連ル、山陰ハ、
即會津ニシテ、山陽ヲ、仙道トナス、逢隈川、南ヨリ
来リ、其中間ヲ貫キ、東北ニ流レ、岩城ト相夾ミテ、
境界相交ル、岩瀨川ハ、須賀川ヲ過キテ、東ニ流ル、
其他、名女川、高倉川等アリ、皆源ヲ西山ニ發シ、悉
逢隈ニ入ル、其間、鏡沼、安積山等ノ古蹟アレ、氏、只
名ノミ存ス、而テ安達原ハ、河東ノ廣野タリ、二本
松ハ、畠山氏ノ居城ニシテ、須賀川ハ、二階堂氏ノ
舊城地ナリ、共ニ白川、石川ノ諸氏ト、仙道ノ武族
タリ、常ニ伊達氏ト敵國トナリ、悉其滅亡スル所

トナル、
逢隈川ハ、阿武隈ト呼フ、源ヲ朝日山ニ發シ、東ニ
下ル、白川ヲ過キ、北ニ轉シ、其流始テ大ナリ、然レ
氏、河中ニ岩石多クシテ、舟楫ヲ通セズ、須賀川ノ
東ニ、龍崎ノ瀧アリ、河底ノ巨岩、陥リテ、兩段トナ
リ、川流、懸リテ注キ、落テ、瀑布ノ狀ヲナス、其高丈
餘、極テ奇觀タリ、下流ハ、十里計、僅ニ小舟ヲ通ス
レ、氏、再、大瀧ニ至リテ、絶ユ、亦、河中ノ岩石、相列ル
處ナリ、稍、下リテ、福島ニ至リ、水流、始テ平ニ、東ニ
赴キテ、岩城ニ入ル、運輸ノ便、始テ海口ニ達スル

一ヲ得タリ、伊達信夫ハ、逢隈川ニ跨リテ、土地頗平坦ナリ、村
 里、悉養蠶ヲ業リシ、桑田相連リ、河岸ノ地、最盛ナ
 リ、福島ハ、郡中ノ一都會ニシテ、街市、頗繁盛ナリ
 古大佛城ト稱シ、常ニ戰要ニ當レリ、其他、梁川、保
 原、川股、桑折ノ街市アリ、其蠶種、生糸ノ出ツルヲ
 以テ、各繁華ヲナス、○半田、銀山ハ、西ニ峙チ、其銀
 鑛ノ起、已ニ三百年ニ及フ、北ニ小坂峠アリ、南ニ
 板谷峠アリ、共ニ羽前ノ米澤、最上ニ往來スルノ
 坂路ニシテ、吾妻山、板谷ノ上ニ聳エ、中腹ニ温泉

アリ、土湯ト云ス、水流、是ヨリ流レ出テ、福島ニ流
 レ、注ク者、須川ト云フ、銀山ノ陰ニ、飯坂湯、村ハ
 温泉アリ、摺上川ノ上流ヲ夾ム、此地ハ、浴客常ニ
 多クシテ、樓舎頗盛ナリ、下流、或ハ瀬上川トモ云
 フ、○東北ニ、篤借山アリ、磐城ノ刈田ニ接ス、奥州
 征伐ノ時、錦戸國衙ノ柵ヲ構ヘテ、東軍ヲ要撃セ
 シ處ニシテ、今、伊達ノ大木戸ト呼ビ、溝塹ノ跡、猶
 存セリ、○靈山ハ、銀山ト相對シテ、正東ニ峙ツ、建
 武中興ノ日、北畠顯家ノ城ヲ築キテ、奥羽ヲ鎮守
 セシ處ナリ、其山、頗峻絶ニシテ、磐城ヲ限ル山脈

中ノ最大ナル者ナリ、磐城ハ、白川、白河、石川、田村、菊多、磐城、磐前、楢葉、標葉、行方、宇多、亘理、伊具、刈田ノ十四郡アリ、此國モ、石背ト同シク、石城國ヲ建ラレシ時ハ、磐城、標葉、行方、宇多、亘理ノ五郡ニシテ、更ニ常陸ノ多賀郷ヲ割キ、菊多郡ト名ケテ、是ニ屬ス、後二十三年ニシテ、廢セラル、復、一千一百二十八年ヲ經テ、舊ニ復シ、更ニ白河郡ヲ屬シ、別ニ東北端ニ於テ、刈田、伊具ノ二郡ヲ加テ、東ハ大洋ニ向テ、沿岸ノ地ハ、即、古ノ石城國ニシテ、仙道ニ對シテ、海道

仙海

ノ稱アリ、文治中、源賴朝ノ藤原泰衡ヲ伐ツヤ、將士ヲシテ、兩道ヨリ兵ヲ進メ、逢隈ノ湊ニ會ヒシハ、即、逢隈川ノ海口ニシテ、今、荒濱ト云フ、是ヲ國ノ東隅トナス、是ヨリ南ニ亘リテ、常陸ノ平潟ニ至ル、四十里、西ハ、一帶ノ連山、兩道ノ間ヲ限ル者、脈ヲ常陸ノ境ニ起シ、御在所、三、大明神、矢、大、厚、大、瀧、根、ノ諸山相連リ、移、岳、虎、捕、山、靈、山、等、其北ニ續キ、漸、小ニシテ、北、藏、峯、旗、卷、峙、東、光、山トナリ、亘理、伊具ノ界ヲ限リ、逢隈ノ岸ニ至リテ、盡ク、其山ト海トノ間ハ、廣處十里ニ及ヒ、狹處、四五里ニ過キ

ス、是ヲ大別シテ、南ヲ磐城ト總稱シ、北ヲ相馬ト呼ス、

磐城分レテ、磐前サキ、植葉ナシハノ三郡トナリ、菊多郡ヲ并

セテ、磐城四郡ト云フ、平城ハ、岩城氏世々ノ居城

ナリシ故ニ、街市猶小都會ヲナス、城外ニ長橋アリ、昔藤原清衡ノ女、岩城氏ニ嫁セル者、老後、德尼

ト云フ、實ニ此橋ヲ創造ス、故ニ尼子橋ト呼フ、其

製平田ノ上ニ架ク、蓋洪水ノ為ニ豫設クル者ト

ス、○南ニ泉城アリ、兩城ノ近地ハ、頗平坦ニシテ、

其間ニ温泉アリ、湯本ト云フ、古ノ三箱サハ御湯ト呼

ズ者、是ナリト云フ、湯岳、赤井岳、相並ヒテ、其西ニ

峙シ、赤井ハ、毎夜、燐火アリ、土人、是ヲ龍燈ト云フ、

其後ハ、御在所、野大臣ノ諸山ニ接ス、山間多ク石

炭ヲ出ス、鎌田川、鮫川カワ源ヲ山中ニ發シ、各東流シ

テ海ニ入ル、海濱ハ、鹽尾崎出テ、中作サカ、小名濱ナハノ

二港ヲナス、サレト、灣小ニシテ、大船ヲ着クルト

能ハス、崎ノ北濱ヲ、四倉ヨシクラト云フ、魚鹽ノ利ハ、近郡

ニ冠タリ、是ヨリ北ノ海岸ハ、或ハ絶壁數丈、或ハ

岩礁亂立、其間、沙路、坂路、高低相連リテ、遠ク相馬

領ニ亘レリ、

相馬ハ郡郷ノ名ニ非ス、相馬氏世々、標葉行方、宇
多ノ三郡ヲ領ス、故ニ此地ノ總稱タリ、今ノ城市
ヲ中村ト云フ、頗繁盛ニシテ、原釜ノ湊ヲ距ル僅
ニ一里、故ニ運漕ノ便アリ、鶺尾崎湊ヲ擁シテ、灣
ヲナセトモ、亦小ニシテ、碇泊ノ便ニ乏シ、郡中ハ
田野開々、道路整ヒタリ、原町ニ牧場アリ、野馬數
百匹ヲ畜フ、然レ氏妙見ノ神使ト稱シテ、是ヲ用
井ガリシト云フ、此地ハ、東海西山ノ間、甚近クシ
テ、川流大ナラス、宇多川、鹿島川等アレハ、共ニ細
流ナルハ、

白河ハ、岩代ト接シテ、仙道中ノ六郡タリ、永祿、天
正ノ間、豪族ノ土地ヲ占メ、城郭ヲ構ヒシ者ハ、各
其所領ヲ以テ、私ニ建テ、一郡トナス、白川、石川
ハ、即、本郡ヲ分チタル者ニシテ、田村ハ、安積郡ノ
逢隈河東ノ地ナリ、今皆公ノ一郡トナル、白川城
ハ、白河郡ニシテ、下野ニ接シ、桐倉城ハ、白川郡ニ
シテ、常陸ニ接ス、兩國ノ境ニ、八溝山、高ク聳エタ
リ、白川ノ諸水ハ、悉集リテ、南ニ流ル、是ヲ久慈川
ノ上流トナス、其他三郡ハ、逢隈川ニ沿ヒ、衆水悉
注キ入ル、大率細流ナルノ也、○白河關ハ、勿來關

ト其ノ昔時、關門ヲ建テ、海山兩道ノ要口ヲ扼
セシ處ナリ、兩地共ニ其趾ヲ存ス、白河ハ地勢甚
險ナラス、而テ勿來ノ地タルヤ、八溝ノ山脈、東ニ
走リテ、大向山トナリ、直ニ東洋ノ岸ニ至リテ盡
ク、關ヲ其處ニ築キシカ、古道既ニ廢絶シテ、今ハ
山腹ヲ穿テ鑿リテ、僅ニ一路ヲ通ス、尚、要害ノ地
ナリ、關下ハ、菊田濱、九面濱等相連リテ、平潟ニ接
ス、石川氏ハ、石川郷ニ據リ、田村氏ハ、田村、莊ヲ領ス、
白川、結城氏、及ニ階堂、畠山ノ諸氏、共ニ伊達氏

ニ敵シテ、或ハ亡ビ、或ハ降ル、獨、田村氏、其舅氏ヲ
以テ、三春城ニ據リ、常ニ應援ヲナス、守山ニ大元
帥ノ祠アリ、蓋、田村將軍ヲ奉祀スル處ナラン、
刈田、伊具ハ、國ト地勢相屬セズ、岩代、陸前ノ間ニ
夾マレ、北ハ羽前ニ接ス、全郡山多ク、北境、殊ニ重
峻ナリ、刈田岳、又、白石岳ト呼ブ、高峻ニシテ、陸羽
ノ界ニ跨ル、古、不^ス忘^ル山ト唱ヘシ者、是ナリト云フ、
其最高キ峯ヲ、截王岳トナス、亦、噴火山ニシテ、麓
ニ温泉多ク、遠刈田、鎌崎、小原等アリ、白石川ハ、源
ヲ羽前ノ境ニ發シ、岳ノ南麓ニ沿ヒテ、東ニ下ル、

岸ニ就キテ、村里アリ、即岩代ノ小坂峠ヨリ、羽前
ニ往來スル官道ニシテ、峽間數里、是ヲ山中七宿
ト云フ、川流ハ轉レテ、北ニ赴キ、白石ノ街市ヲ繞
リ、末ハ逢隈川ニ入ル、○逢隈川ハ、長流六十里、其
川路タルヤ、仙道ノ中央ヲ貫キ、常ニ東北ニ赴キ
流レテ、海山兩道ノ山脈盡クル處ニ至リ、直ニ東
ニ折レテ海ニ入ル、其岩城ヨリ來リテ、伊具ノ中
間ニ入ルヤ、兩岸聳エ逼リテ、河幅俄ニ狭シ、是ヲ
猿跳ト云フ、水勢急激ニシテ、是ヨリ上流ハ、大船
ヲ通スルヲ能ハス、丸森ヲ過キ、角田ニ至リ、山絶

エ、地、平カニシテ、川流モ亦從ヒテ穩ナリ、陸前ノ
境ニ沿ヒテ、荒濱ニ注ク、
陸前ハ十四郡、柴田、名取、宮城、黒川、加美、玉造、志
田、遠田、栗原、登米、牡鹿、桃生、本吉、氣仙ト云フ、
牡鹿郡連山、相列リテ、海中ニ出ヅルヲ十餘里、一
ノ大岬ヲナシテ、海勢ヲ兩分ス、是ヲ遠島ト呼フ、
東面ニ二島アリ、田代、網地ト云フ、北陰ニハ、江島、
出島ノ兩島、並列レリ、岬ノ端ヲ黒崎トナス、金花
山、大洋中ニ屹立シ、我國中土ノ東極タリ、其山ハ
岬端ヲ離ル、半里計、山鳥渡ト云フ、全山悉巨岩

疊石ニシテ、且砂礫ニ至ル迄、皆金色ヲ帶ヒタリ、其大洋ニ向フ處ハ、削壁危柱、相列リ、大箱、小箱、及千疊敷、水晶岩等ノ奇觀アリ。○此山ヨリ北ノ海岸ハ、岩石連リタル荒磯ナレド、海水深クシテ、舟泊ニ宜シキ處多シ、氣仙沼、寂盛ナリ、唐桑崎其北ヲ限リ、大島、港口ニ横リ、舟舶常集リテ、小都會ヲナス、此沿海ノ地ハ、即本吉、氣仙ノ兩郡ニシテ、室根山ノ脈其背ニ連リ、陸中ノ東山ト境界ヲ分ツ、郡中山多ク、氣仙ハ、今泉盛等ノ街市アリ、五葉山高ク聳エテ北境ヲ限ル、海岸ハ綾里崎、唐丹濱等

相連レリ、本吉ハ蠶桑ノ業殊ニ盛ニシテ、入谷志津川ノ村邑、寂良品ヲ出ス、金華山ヨリ東南ハ、海水遠ク連リ、渺茫トシテ、其涯ヲ見ズ、凡東洋ヲ航行スル者ハ、房州沖ヨリ北ハ、此山ノ外、目標トスル者ナシト云ヘリ、山頂遙ニ岩城ノ鶴尾崎ト對シテ、其沿岸一ノ大灣ヲナス、灣ノ中央ヲ松島トナス、此地ハ、日本三景ノ第一ニシテ、宮戸、寒風澤、石濱ノ諸大島、其前面ヲ擁シ、南ハ與崎ヲ限トシ、其端ヲ花淵ト云フ、北ハ唐名ノ長洲、突出テ、其内、南北五里、東西三里、一ノ内

地誌要略 卷之二

海ヲナス、群島一百、大小並列リ、陸ニ近キ處ハ、御島、薩島、福浦島等、取著名タリ、凡、島嶼ノ上、悉、松樹ニシテ、翠色、烟波ト相映シ、妝點ノ美ナル、實ニ魚雙ノ勝景タリ、西北隅ニ富士山アリ、全景ヲ一望スヘシ、其他ハ、宮戸ノ大高森、與、崎ノ毘沙門山等モ、亦眺望ニ佳ナリ、千賀浦ハ、西北ノ隅ニシテ、其地、鹽釜祠アリ、祠下ノ街市ハ、祠ニ因リテ、其名ヲ同クス、此地ハ、仙臺ノ城市ヲ距ル五里、運輸ノ出入、常ニ茲ニ集ル、故ニ繁盛ナル、一小都會タリ、○鹽釜ノ南ニ、多賀城址アリ、神龜元年、始テ此城ヲ築

キテ、蝦夷ノ境ヲ歴ス、鎮守將軍常ニ来リテ、奥羽ヲ鎮シ、戍兵ヲ置キ、軍糧ヲ儲メ、號シテ鎮所ト云フ、其後、天平寶字六年、更ニ修造シテ、門碑ヲ建ツ、千餘年ノ久、今猶現存ス、其文ニ曰、去京一千五百里、蝦夷國界一百廿里ト、今程ノ二百五十里、及、二十里ニ當レリ、即、知ル、是ヨリ前ニ、桃生及玉造柵ヲ造ル者、恰夷境ニ接セリ、田村麻呂ノ、膽澤城ヲ築クニ及ヒテ、鎮所ヲ移シ、弘仁中、遂ニ其城ヲ以テ、鎮守府ト定メ、此地、遂ニ廢絶ニ就キシトゾ、仙臺ハ、一巨城市ニシテ、人口五萬、東方ノ一大都

會ナリ、元、伊達氏ノ居城ニシテ、樓壁ノ設、青葉山ニ據リ、廣瀨川ヲ帶ヒ、頗險要ナリ、伊達氏ノ會津仙道ヲ攻取スルヤ、豊太閤其專擅ヲ責メ、侵地ヲ收メテ、僅ニ舊領ナル米澤ヲ存ス、既ニシテ遷封スルニ、葛西、大崎ノ地ヲ以シ、居城ヲ岩手山ニ建テシガ、後、此地ニ移リ治ム、故ニ其繁華ナルヲ名古屋、金澤ニ次ク、城西ノ地ハ、連山、相重リ、奥、羽ノ分界ニ接ス、太白森、磐山、根白石岳等相峙チ、北ハ七森ニ連リ、山間ニ作並、秋保ノ温泉アリ、東南ヲ青根ト云フ、其地ハ刈田岳ノ北麓ニ當レリ。○城

南、平野遠ク連ル十餘里、直ニ海濱ニ至ル、即古ノ宮城野ニシテ、今猶古蹟ヲ存ス、萩花鈴虫、只名ノミナラズ、海岸ハ平沙行松、相連リ、南ハ逢隈ノ河口ヨリ、北ハ花淵崎ニ至ル、沿海九里、其間蒲生、閑上ノ諸濱アリ、名取川ハ源ヲ太白森、鑄岳、釜谷峠等ノ數處ニ發シ、廣瀨川ト相合ヒテ、閑上ニ注ク、更ニ七北田川アリ、下流ヲ冠川ト云フ、宮城野ノ北ヲ過キテ、蒲生濱ニ落ツ、共ニ細流ニシテ、舟楫ノ利ニ乏シ、志田遠田ハ、國ノ中央ニシテ、平田數十里間、絶エ

テ岡阜ヲ見ズ、北ハ栗原佐沼ニ亘リ、東ハ北上川ニ跨リテ、桃生登米ニ連リタリ、土俗、平田ノ廣大ナル處ヲ、廣稻ト唱フ、此地ハ、北朝廷文中、大崎家兼、奥羽探題トナリテ、領セシ處ナレバ、今尚、大崎廣稻ト呼フ、湖沼十數、其間ニアリ、品井沼、最、大ナリ、周田十里、其他、廣淵沼、下郡沼、蕪栗沼、伊豆沼、及名、鱒中田ノ諸沼アリ、共ニ、周田三四里ヨリ七八里ニ及フ、諸沼ノ間ハ地、大率卑濕ニシテ、只、草茅ヲ生ズルノミ、俗ニ呼ビテ、谷地ト云フ、鳴瀨川ハ加美郡ノ水ヲ集メテ、中新田ニ本、木及松山ヲ過

キ、品井沼ノ下流ト合ヒテ、小野川トナリ、唐名ノ東ニ至リテ海ニ入ル、玉造川ハ、源ニ、鳴子川、度ノ温泉アリ、下流ヲ江合川ト云フ、岩手山、古川ヲ過キ、涌谷ニ至リ、北上川ニ入ル、佐沼川ハ、迫川ノ下流ニシテ、伊豆中田ノ諸沼ヲ集メ、南ニ轉シテ、蕪栗沼ニ入ル、再東出シテ、亦北上川ニ入ル、此三川ハ、謂ユル廣稻ノ間ヲ流ル、者ニシテ、小舟常ニ上下ス、昔、聖武帝ノ時、陸奥、始テ黄金ヲ貢スト、其趾ハ、涌谷ノ北ナル、篔岳ニシテ、平野中ノ孤山ヲリ、其傍、猶、黄金迫ノ名アリ、○北上川ハ、陸中ヨリ

来リ、室根山ノ脈、連ル處ニ就キテ、南ニ流レ、山絶
エテ谷地、相連ル、諸沼ノ間ヲ横流シ、和淵ニ至リ、
東ニ轉シテ、廣淵沼ノ下流ヲ弁セ、鹿股ニテ、分レ
テ兩川トナリ、東流スル者ハ、本吉ノ追波ニ至リ
海ニ入ル、本流ハ南ニ赴キテ、石巻ノ港ニ注ク、即
古ノ伊寺水門ニシテ、河口ヲ夾ミ、街市相對ス、此
地ハ東洋中ノ一大港ニシテ、頗繁盛ヲ極ムト雖
モ、河口、水淺クシテ、大船巨艦ヲ泊スル能ハス、然
モ、東岸ニ牧山アリ、西岸ニ日和山アリ、又自海門
ヲナス、源賴朝ノ奥羽ヲ平沼スルヤ、葛西清重ヲ

總奉行トナシ、日和山ニ居ラシム、後登米ニ移ル、
故ニ其領スル處、亦葛西七郡ノ稱アリ、牧山ノ東
ニ渡波ノ入江アリ、是ヨリ東ヲ遠島ノ地トス、
栗原郡分レテ一迫、二迫、三迫トナリ、而テ栗原ト
稱スル地ハ、佐沼ト共ニ此郡ニ屬シテ、地勢ハ遠
田、登米ニ連リ、而テ金成廣稻ト稱スル地ハ、東北
ノ平田ニシテ、陸中ノ西磐井ニ亘リタリ、迫トハ、
峡谷ノ謂ニシテ、其地、山多ク、其間ノ溪流、相集リ
テ、迫川トナル、駒岳高ク聳エテ、陸中羽後ニ跨ル、
郡名ヲ冠リテ、栗駒山ト云フ、即大山脈中ノ最大

ナル者ニシテ、是ヨリ南ニ連ル、群山ハ、大嶽山、翁岳、鍋岳、仙人岳等モ、共ニ大ニシテ、刈田岳ニ接ス、其間ニ清水峠、笹谷峠及輕井澤中山等ノ險坂アリ、奥羽ノ間ニ往来スル者、必是ニ由ルト云フ、陸中ハ、岩井、膳澤、江刺、和賀、稗貫、志和、岩手、鹿角、閉伊、九戸ノ十郡ナリ、

此國ハ、閉伊、九戸ヲ除キテハ、四面海ナク、且鹿角ハ、大山脈ノ西陰ニ在リテ、地勢相隔絶ス、而テ七郡ノ地ハ、山脈東西ヲ環リ圍ミ、北上川、其中間ヲ貫キテ、南ニ流レ、陸前ニ入ル。○岩鷲山、高ク聳ユ、

形似ヲ以テ、南部富士ト云フ、南部ハ、奥地ノ名ニ非ズ、南部氏、甲斐ヨリ来リ、近傍ノ諸郡及糠部津輕ノ地ヲ領ス、故ニ大南部、小南部、外南部ノ稱アリ、南昌山モ、亦一高山ニシテ、岩鷲ノ正南ニ峙テ、東根、葛丸ノ諸山、相連リ、別ニ一ノ山脈ヲ起シテ、其陰ヲ雫石、澤内ノ二邑トナス、連山相重リテ、其西ニ亘リ圍ム者ハ、大山脈ノ南ニ赴ク者ニシテ、御駒岳、馬蛭岳、雄駒岳、及經塚、旗矛ノ諸山、高峻相競ヒ、岩鷲ノ背ヨリ起リ、酢川岳ニ接ス、酢川ハ、即栗駒岳ニシテ、是ヲ陸前ノ境トナス。○御姫岳ハ

地理要略 卷之二 至

玉東山トモ云フ、岩鷲山ト對峙シテ、東ヲ圍ム連
山ノ脈ヲ起ス、其背ヲ藪川山トナス、早池峯雞頭
山ノ諸高山ト相連リ、九戸、閉伊ノ背ニ並ヒ、六角
牛山室根山等、一帶南ニ赴キ、陸前ノ氣仙、本吉ノ
西境ヲ限リ、登米、桃生ノ間ニ至リテ盡ク、○正北
ハ陸奥ニ接シ、其界ヲ中山ト云フ、即東西ノ山脈
左右ヨリ相接セル處ニシテ、是ヨリ北ハ、水流悉
北ニ流レ、以南ハ、皆北上川ニ入りテ南ニ流ル、中
古夷境ヲ限ル者ハ、實ニ天然ノ經界ナリ、
北上川ハ、岩鷲山ノ北ナル、弓ユ硝セ泉センヲ水源トナス、

ノ

南流スルヲ僅ニ六七里ニシテ、盛岡ニ至ル、舟橋
アリ、越中ノ富山、越前ノ福井ト九頭龍神三舟橋ノ名アリ
レガ、近來、板橋ニ改造シテ、行路ノ便ヲ謀ル、橋下
既ニ舟運ノ利アリ、凡七郡ノ水、數十川、注キ入り
テ、益其大ヲ致シ、常ニ南ニ赴キテ、陸前ニ入ル、抑
我國ニ於テ、大河ト稱スル者ハ、中土ニアリテ、利
根、木曾、千曲ノ三川ヲ推ス、サレド、利根ハ舟楫ニ
便ナレド、水程、其源ニ及バズ、千曲ハ、其流長シト
雖モ、處々、障碍アリ、木曾ハ、溪谷ノ大ナル者ニシ
テ、下流ニ至リ、僅ニ通船ヲ得ルノミ、獨此川ハ源

地誌要略 卷之二 五十二

ヨリ洲ハ至ル七十里沿岸ノ地大率平坦ニシ
テ河中岩礁ノ害ナク舟運ハ遥ニ其源ニ溯リ兩
國ノ米穀數百萬石其運輸是ニ由ラザルナレ實
ニ無雙ノ大河ト云フ可シ○七郡ノ水其著ル
者ハ丹藤川ハ、藪川山ヨリ出テ、西下ス源泉ヲ
去ル遠カラズ、河流此水ヲ得テ勢始テ其大ヲナ
ス、雫石川ハ、御駒岳ノ山脈ヨリ發シ、東ニ下リ、厨
川ノ城墟ヲ繞ル、中津川ハ、東ヨリ來リ、盛岡ノ市
間ヲ流ル、盛岡ハ、南部氏ノ居城ナリ、元和來方城
ト呼ヒ、方城都會ニシテ、仙臺以北ノ城市ナリ、

厨川ハ、北上川ヲ夾ミテ相對ス、天喜中安倍貞任
ノ據リテ、官軍ニ抗セシ處ニシテ、其地西北ニ大
澤アリテ、他ノ二面ハ、河ヲ阻ツト稱ス、今猶然リ、
賴義ノ是ヲ攻ムルヤ、火攻ヲ用キテ、遂ニ誅滅ス
ルヲ得タリト云フ、志和郡ニ、斯波氏ノ故城アリ、
伊澤郡ニ鎮守府ノ舊趾アリ、和賀川ハ、澤内ノ
水ヲ集メ、膽澤川ハ、源ヲ、下嵐江ニ發シ、各郡ノ諸
溪ヲ并セテ、共ニ西ヨリ來リ注ク、其東ヨリ會ス
ル諸水ハ、横田川、次丸川、倉沼川等共ニ早池峯、六
角牛山ノ山脈間ヨリ出ツル者トス、江刺ニ黑石

寺アリ、田村將軍ノ建立スル所ニシテ、亦有名ノ古寺タリ、衣川ハ、箕川岳ノ陰ニ出テ、高館^{ダケ}ノ下ニ至リテ、櫻川ニ入ル、櫻川ハ、即北上川ノ別名タリ、衣川以北ハ、昔時奥六郡ト稱シ、安倍賴時其首長トナリ、數世海陸ヲ劫服シテ、貢賦ヲ致サズ、衣川ノ險ニ據リ、關ヲ設ケ、厨河、鳥海ノ二柵ヲ構ヘテ、勢甚彊大ナリ、賴義國守ヲ以テ、是ヲ討ス、攻伐六年、賴時遂ニ鳥海ニ敗死ス、其子貞任、再衣關ニ據リ、官軍屢敗ル、後又六年、賴義兵ヲ出羽ノ豪族清原武則ニ召シ、奮戰シテ、是ヲ破リ、遂ニ衣川、鳥海

ノ兩柵ヲ拔ク貞任退キテ、厨河ヲ保ツト云フ、岩井川ハ、酢川岳ノ陽ヨリ發シ、岩壁相逼リテ、五串ノ瀑布トナル、頗奇觀タリ、此川ノ地方ハ、西岩井ト稱シ、南岸ニ一關、二關、三關ノ村里アリ、昔藤原清衡ノ居所ヲ平泉ニ構ヘシヤ、關ヲ置キテ、守禦ヲ設ケシ處タリ、平泉ハ、高館ト相接シ、清衡基衡秀衡ノ三世、茲ニ居リ、奥羽兩國ヲ領シ、其勢王室ニ僭擬シ、伽羅樂^{カク}御所、柳御所等ノ名アリ、毛越^{モク}中尊ノ二大寺ヲ建立ス、其趾猶存ス、中尊ハ、經藏、光堂、尚榮華ノ舊構ヲ存ス、光堂ハ、金箔ヲ以テ、悉塗

ル故ニ金色堂ト呼フ、其内ニ三世ノ棺ヲ藏ム、源
義經ノ罪ヲ兄賴朝ニ得テ、再逃レテ秀衡ニ依ル
ヤ、高館ニ居ラシメテ以テ奉饗ス、今猶判官館ト
唱ス、其地、北上川ニ臨ミ、川ヲ隔テ、東稻山ト相
對ス、昔時、全山、櫻樹ヲ植ク、仍テ櫻川ノ稱アリ、秀
衡歿後、其子泰衡家ヲ繼ケ、氏、義經ヲ庇翼スルニ
能ハズ、而テ身モ亦誅セラレテ、國遂ニ滅亡ニ就
キタリ、○東山ハ、岩井郡ノ北上河東ニアル地ヲ
總稱スル者ニシテ、曾慶川、興玉川、共ニ室根山ヨ
リ出テ、曾慶川ハ、鳥海ノ柵墟ヲ繞ル、月館川ト合

ヒテ西南ニ流レ、興玉川ハ千廐ヲ過ギテ西ニ赴
ク、千廐ハ、秀衡ノ軍馬ヲ飼ヒシ處ニテ、其礎石現
存ス、其地、猶馬靱ヲ織出シテ名産トナス、山ノ
靈龜元年蝦夷ノ請ニ依リテ、郡家ヲ閉村ニ建ツ、
即今ノ閉伊郡ニシテ、其地ハ、陸前ノ氣仙ノ北ニ
並ビ、九戸ト共ニ、早地峯、藪川、山名久井岳等ノ連
山ヲ負ヒ、前ニハ大洋ヲ受ケ、沿海四十餘里、種市
山岸上ニ峙チテ、陸奥ノ境ヲ限ル、海岸ハ岩礁多
キ、荒磯ナレ、氏、内地ノ山高キガ故ニ、海水深クシ
テ舟泊ノ處多シ、釜石、山田、大槌ノ三港ハ南隅ニ

アリテ、互ニ相接ス、小本川、藪川山ヨリ來リ、宮古
久慈、兩港ノ中間ニ落ツ、宮古ハ、帆懸崎出テ、一
灣ヲナシ、歙崎ト街市相連リ、津輕石川、宮古川、共
ニ西ヨリ來リテ灣内ニ注キ入ル、久慈ハ、相隔ツ
ルヲ十餘里、其地九戸ニ屬スレ、氏、閉伊、戸川流レ
入レバ、古ハ、是ヨリ南ヲ、閉伊ノ本郡トセシナラ
シ、而テ糠部ハ、夷境ニ附セル、屬地ナルヘシ
鹿角ハ、大山脈ノ間ナル平地ニシテ、來萬山、十和
田山等ノ高山、東ニ相列リテ、陸奥ニ界、南ハ岩
鷲山、山背ニ當リ、道路相通セズ、地勢ハ、羽後ノ比

内ト相接シ、日暮、土高場、立菱ノ諸山、相限レ、水
流、悉集リテ、米代川トナリ、西ニ流ル、河源ヲ十和
田湖トナス、元慶二年、出羽ノ夷倅叛シ、上、遠野及
各地ニ據リタリ、即此地ニシテ、後、奥地ニ屬セリ、
郡中ハ、礦山アリ、温泉アリ、花輪、毛馬内ノ諸邑相
望シ、平坦數里、自山間ノ沃野ヲナス、
陸奥ハ四郡ニシテ、二戸、三戸、北郡、及津輕トナ
ス、
東山道ノ北端ニ居リ、我國中土ノ頭頂タリ、三面
海ニ臨ミ、南ハ陸中、羽後ニ接ス、東ハ大洋ニ向ヒ、

西ハ日本海ニ臨ミ、正北ハ海峽ヲ隔テ、北海道ノ渡島ト相對ス、中間ニ大ナル内海アリ、海水北ヨリ來リ、東ハ入ル二十餘里、其沿岸五十里計、南岸ニ青森野邊地ノ兩港アリ、烏帽子岳高ク岸上ニ聳エテ、其間ヲ限ル、故ニ南部津輕兩地ノ通路ハ、海岸一條ノ細路ノミ、是ヲ馬門ト云フ、二戸、三戸、北郡ハ陸中ノ九戸ト共ニ、古ノ糠部ノ地ニシテ、元、閑伊ニ屬シ、中世ニ至リテ、猶夷境ヲリ、其地、南ハ中山ヲ境界トシ、次第ニ區別シテ、北ニ赴キ、一戸ヨリ、七戸ニ至ル、而テ八戸、九戸ハ、東

海ニ沿ヒテ南ニ亘リ、閑伊ノ本郡ニ接ス、〇一戸ヨリ、三戸迄ノ地ハ、陸中ノ間ニ夾リ、西ハ七時雨山、四角岳來、滿山ノ來岳ノ諸岳相列リ、廣角ト境ヲ限リ、其脈北ニ赴キ、十和田山、奥瀨岳、甲田山等連續シテ、烏帽子岳ニ至リテ盡ク、折爪、名久井ノ諸山ハ、中山ノ東ニ連ル、蓋御姫岳ノ脈ヲ承ケテ北ニ亘ル者ニシテ、九戸ト腹背ヲ分ツ、三戸ハ、南部氏ノ舊居タリ、其始、糠部津輕ノ地ヲ領セルヤ、城郭ヲ茲ニ構フ、天正中、其族九戸政實、叛シテ福岡ニ據ル、豐太閤、將兵ニ命ジテ、纔ニ是ヲ討平ス

ト云フ、凡、此間ノ水流ハ北ニ流レ、白鳥猫淵ノ諸川、悉、福岡ニ集リ、漸、大川トナリ、七時雨山ヨリ來ル淨法寺川ト合ヒテ、三戸ニ至リ、又、來、嵩山ニ發スル熊原川ヲ并ヒ、轉ジテ東ニ下ル、其流、廿五里、是ヲ馬淵川ト云フ、八戸ノ湊ニ注ク、此湊ハ、南部支封ノ地ニシテ、小南部ノ稱アリ、東洋ノ岸ニ於テ、冢北ノ海港トナス、故ニ頗、繁華ノ地タリ、○五戸七戸ノ間ハ、山田解ケテ、東洋ヲ一望ス可シ、其間、曠原荒蕪スルヲ、四方十餘里ニ亘ル、是ヲ三本木平ト云フ、六戸川ハ、相坂川ト云フ、源ヲ十和

田沼ニ發シ、荒野ノ中央ヲ東下シテ海口ニ至リ、戸來岳ヨリ出テ、五戸ヲ流レ來ル市川ト共ニ海ニ入ル、○十和田沼ハ、山間ノ湖水ニシテ、周回數里、其高山ノ腹ニ在ルヲ以テ、水清ク、地幽ナリ、湖口、四出ス、西流スル者ハ、米代川トナリ、北出スル者ハ、岩木川ニ入ル、而テ東ニ下ル諸川ハ、共ニ東洋ニ注ク、奥、瀨川、大浦川、共ニ七戸ノ南ヲ流レ、坪川、石文川ト合ヒ、海濱ニ至リ、溜リテ、倉内、尾駮ノ二大沼ヲナス、妙海、妹海ト云フ、周回各、十里計、海潮、互ニ通ス、○野邊地ハ、七戸ノ北五里餘ニ在

駮

北海ニ運漕スル舟舶常ニ出入シテ一都會ノ地タリ是ヨリ東北ハ即外南部ノ地ニシテ一帯ノ陸路地峽ヲナレ相連ル十里計内海ト東洋トノ間ニ亘レリ北端ヲ尻矢崎ト云フ渡島ノ惠山崎ト對シ又遙ニ日高ノ襟裳崎ト相望ム暗礁海中ニ亘ル一三里舟行ノ難所トス其東洋ニ向フ處モ八戸ノ岬ニ至ル二十餘里海上ニ岩礁並峙チ風浪常ニ險惡ナリ地峽ノ幅ハ三四里大率空山荒野ニシテ村里樹木少ク其端西ニ折レテ大ナル出島ヲ為ス沿岸二十里舟泊ノ處多シ北出

ノ岬ヲ大間崎ト云フ箱館港ト相向フ海程七里計西ニ奥戸佐井ノ二港アリ東ニ大畑港アリ中央ハ悉噴火山ニシテ山火常ニ燃エ硫氣充滿シテ草木生ゼズ其高キ者ヲ恐山ト云フ大畑川生テ津川共ニ山中ヨリ出テ北流シテ外洋ニ入ル内海ノ岸ニ釜伏山高ク聳ユ山中多ク檜材ヲ出ス東麓ヲ田名部トナス安渡ノ港ト相接シテ島中ノ一都會タリ西端ヲ九艘泊ト云フ津輕ノ平館ト内海ノ口ヲ夾ム其間六里ヲ隔ツト云フ津輕ハ兩羽ノ北端ニ屬シ山岳重叠シテ其東西

ヲ因ム、隣境ト相接スル處ハ、矢立峙、僅ニ陸路ヲ
羽後ニ比内ニ通ス、其麓ヲ碓關シウカント云フ、温泉アリ、
朝懸高倉ノ諸岳、其西ニ列リテ、正南ヲ限ル、泊岳、
寂大ナリ、東境ハ、十和田、奥瀬ノ山脈、相連リテ、膳
棚、蛭飼ノ諸山アリ、甲田山ハ、八峯並列レテ、殊ニ
峻秀ナリ、故ニ八甲田山、又、八甲山ト云フ、其脈盡
クル處ヲ、馬門ノ險路トナス、西ノ海濱モ、亦白神
岳、男岳、女岳等、泊岳ノ陰ニ接シ、沿岸、只、大間越オホマキノ
一線路アルヲ、其他ハ、三面海ニ臨ミ、沿岸、七十
里、北出ノ岬ヲ、龍飛崎ト云フ、渡島ノ白神崎ト、相

對シテ、海峽ヲ夾ム、其間四里計、海流、激シテ、三條
ノ大河ヲナス、潮流ノ急ナルヲ、我國ニアリテハ、
第一ノ險ナリ、阿波ノ鳴戸、長門ノ早鞆ハ、是ニ次
ガ、蓋日本海ノ水、太平洋ト、互ニ流レ通スル處ニ
シテ、其潮路ハ、兩岬ノ下、及中央ニ在リ、舟人、是ヲ
三沙ト唱ヘテ、舟行ノ甚戒ム處トナス、岬ノ東ヲ
三馬屋ト云フ、松前ニ渡ル地ニシテ、停泊ノ便アリ、
此地ハ、九郎義經ノ、平泉ヲ逃レテ、蝦夷地ニ渡
リシ處ニテ、其時鞍馬三ヲ留ム、故ニ此名アリシ
ト、此邊ノ海濱ハ、謂ユル外濱ニシテ、舍利イニシ、今別

ノ諸濱ハ、砂石、悉珠玉ノ如シ、是ヲ合浦ト稱ス、其背ハ、増川、岳品、岳等相重リ、東端ヲ平館トナス、即内海ノ門口タリ、○内地ハ、平坦ニシテ、田野開ケ、岩木山、西南ニ峙テ、獨立高峻、呼ビテ津輕富士ト云フ、岩木川ハ、源ヲ泊岳ニ發シ、岩木山ノ溪谷ヲ并セ、北流シテ、弘前ノ城市ヲ環ル、天正中、津輕爲信ノ據リテ、本郡ヲ專領セシ處ニシテ、郡中ノ一都會タリ、平川、淺瀬川、石川等、共ニ東境ノ連岳ヨリ来リ、悉合流シテ、一大河ヲナリ、平野ノ間ヲ横流シテ、十三瀉ニ入ル、其流二十餘里ニ及ブ、○十

三瀉ハ、一ノ湖水ニシテ、南北三里、東西二里、湖口、港ヲナシテ、舟船常ニ集レリ、其地、西北ノ海濱ニ臨ミ、是ヨリ南ニ沿ヒテ、鰺澤ニ至ル、平砂、相列リテ、村里ナシ、七里長濱ト云フ、鰺澤モ、亦碇泊ニ便ナル處ニシテ、其南ニ、又深浦ノ港アリ、海岸漸峻峻ナレバ、頗好風景ノ地タリ、海上ハ、岩石並列シテ、大間越ニ亘レリ、以上三港、更ニ青森ヲ并セテ、津輕ノ四港ト稱ス、○青森ハ、内海ノ西南隅ニ在リ、平館ヲ距ル、沿岸十里、弘前ヲ隔ツ、陸路十餘里、港ノ東ニ、夏泊崎出テ、更ニ一灣ヲナス、其地、樹

木蒼翠トシテ、舟人見テ目標トナス、故ニ此名アリ、箱館へ、水程三十里、諸國ノ、舟舶、常ニ集ル者數百人、烟ノ盛ナルト、石巻、酒田ト、三方ニ對立シテ、奥羽中ノ三大港タリ、

羽前ハ四郡ニシテ、置賜、村山、最上、田川ト云フ、和銅元年、越後國ニ出羽郡ヲ置ク、今ノ庄内ノ地是ナリ、同五年、建テ、國トナシ、陸奥ノ最上、置賜ノ二郡ヲ屬ス、明治元年、奥羽ヲ分ツ時、羽前國ヲ置ク、即此三郡ノ地ナリ、其地、東ハ陸前、磐城ニ接シ、南ハ岩代、越後ニ包マレ、北ハ羽後ニ界ス、國境

ハ、何レモ深山重岳ニシテ、西僅ニ日本海ニ臨メリ、月山、國ノ中央ニ聳エテ、地勢ヲ限リ分ツ、平野其間ニ連リテ、復米澤最上、庄内ノ三地ヲ爲セリ、最上川ハ、兩羽中ノ大河ナリ、上流ヲ松川ト云フ、吾妻岳ニ發シ、西下シテ米澤ヲ過キ、鬼面川、羽黒川、吉野川、野川等ヲ并セ、北ニ赴キテ、最上川トナリ、左澤ヲ過キ、東ニ轉シテ、寒河江ニ至リ、須川馬見、崎川、相會シテ、平野ノ間ヲ北流ス、立岩川ハ、東ヨリ來リ、白岩川ハ、西ヨリ入り、益其大ヲ致シ、尾花澤ヲ過キ、船形川、北ヨリ來リ、注キ、仍テ折レテ、

西平轉及此間、月山ノ脈ニ當リ、連山重合シテ、平地ノ流山行ク可キナシ、故ニ板敷山ノ麓ヲ穿テ貫ク、兩岸壁立數十丈、瀑布其際ニ懸リ、頗奇觀タリ、水勢最急激ナレト、山路ノ殊ニ險シキヲ以テ、清水ヨリ清川迄、峽間七里、往来共ニ舟ニ依ル、即富士川及肥後ノ球摩川ト、三急流ノ稱アル所ナリ、清川以下、兩岸圍解ケ、庄内ノ中央ヲ斷テ、竹田川、赤川ヲ并セ、亦七里ニシテ、酒田港ニ至リ、海ニ入ル、故ニ酒田川ト呼ブ、此川、源ヨリ海口迄、凡六十里、遠キニ及バ、舟楫利ハ、僅ニ其三分

ノ一ニ過ギバト云フ、庄内ハ、中古三郡ノ稱アリシガ、出羽郡廢シテ、田川ニ合シ、飽海郡ハ、羽後ニ屬ス、最上川、兩郡ノ間ヲ流レテ、仍テ國界ヲナス、尚、兩地ニ亘リテ、庄内ト呼ブ、○月山、高ク秀テ、正東ニ聳エ、湯殿羽黒ノ兩山、其腰ニ峙チ、北ハ板敷山ニ接シ、南ハ朝日岳ニ連リ、最上ト腹背ヲ分ツ、朝日岳ハ、越後ニ跨リ、其脈、西ニ赴キ、尾國嶺トナリ、險阪數里、是ヲ兩國ノ境トナス、○鳥海山ハ、奥羽中ノ大岳ニシテ、登降九里ニ及ブ、其山、獨立峻秀ニシテ、他山ノ遮

リ覆フ者ナシ、山麓、西ニ赴キ、海岸ニ至リテ斷ツ、
 是ヲ三崎嶺トナス、山路險惡ニシテ、僅ニ往来ヲ
 通ズ、有耶無耶關ト呼ブ、庄内ノ北境タリ、南境ハ、
 鼠關ト云ヒ、即尾國嶺ノ麓ニ當レリ、兩關ノ間、海
 岸二十里計、酒田川ノ海口ヨリ、南ハ、加茂湊、及三
 瀨、温海ノ諸邑相連リ、海中ニ岩礁並峙チ、岸上モ
 山多クシテ、道路險峻ナリ、温海岳、高ク聳エ、其麓
 ニ温泉アリ、湯温海ト云フ、而テ加茂以北ハ、遠ク
 亘リタル砂山ニシテ、酒田ノ北ヲ吹浦ト云フ、沿
 岸十里、海風常ニ砂礫ヲ吹キ、行路甚艱メリ、一島

其海上ニ孤立スル者ヲ、飛島トナス、○内地ハ、頗
 平坦ニシテ、金峯山、東南ニ聳エ、大梵宇川ハ、湯殿
 山ヨリ出テ、大鳥川ヲ合セ、鶴岡ノ城市ヲ繞リ、北
 ニ流ル、是ヲ赤川トナス、抑此地ハ、大寶寺氏ノ領
 地ニシテ、天正中、其主光安、苛政ヲ施ス、國人、稱シ
 テ惡屋形ト呼ベリ、後、寂上氏ノ為ニ滅サル、既ニ
 シテ、上杉氏、越後ヨリ來リ、攻メテ是ヲ取ル、鶴岡、
 常ニ其城地トナリ、街市ノ繁盛、今ニ大都會ヲナ
 ス、酒田港ト、相距ル六里、赤川ニ舟運ノ便アリテ、
 常ニ往来ス、酒田ハ、北運ノ舟船、集リ泊シテ、京畿

ノ運輸ニ便ナリ、其人烟ノ繁華ナルヲハ、新潟以
北ノ一大良港ナリ、
最上郡分レテ村上郡トナル、實ニ仁和二年ナリ、
延文元年、源兼頼、北朝ノ命ヲ受ケテ、出羽按察使
ニ任ズ、仍テ、最上氏ヲ稱シ、十世ノ孫義光^{アキ}、遂ニ此
二郡ノ地ヲ專領ス、故ニ猶、總稱シテ、最上ト云フ、
東ハ、翁岳^カ、笹谷山等相連リテ、蔵王岳ニ接ス、西ハ、
月山ノ脈列リ、葉山、其前ニ聳ユ、中央ハ、冨上川ノ
東西ニ亘リ、其間四五里、南北凡十五里計、地勢ノ
平坦ナルヲ、兩羽中ニ冠ス、北境ハ、山多クハ、

八向^{ヤチ}、木像ノ諸山相連リ、羽後ノ境ヲ、及位^イ峠トナ
ス、又、杉峠ト云フ、新庄ハ、山間ノ城市ナリ、猿^サ列川、
西ニ流レテ、冨上川ニ入ル、是ヲ船形川トナス、此
地方ハ、即、冨上氏ノ舊地ニシテ、後、山形ニ移リ居
リ、○山形城ハ、義光、築ク處ニシテ、城郭ノ設、頗壯
大ナリ、上、山、天童ノ二城、其左右ニ列リ、須川、馬^マ見
崎川、共ニ蔵王岳ヨリ出デ、三城ノ間ヲ流レテ、
西ニ下ル、上、山ニ温泉アリ、遊人、常ニ来リ浴ス、其
他、山、寺ノ石橋、大沼ノ浮島等モ、亦有名ノ勝地ナ
リ、

米澤ハ、即置賜ノ一郡ヲ呼ブ者ニシテ、伊達上杉
 ノ兩氏相繼キテ、城地ヲ構ヘ、長ク此地ヲ治ム、故
 ニ此稱アリ、○吾妻岳、兩峯高ク聳エテ、岩代ノ界
 ニ立チ、東大巔、西大巔ト呼バ、山腹ニ燒湯アリ、麓
 ニ滑川、五色等ノ温泉アリ、燕瀧、高二十丈、是ヲ松
 川ノ源トナス、岳ノ東ヲ板谷峠トナシ、西ヲ檜原
 峠トナス、共ニ大山脈ノ中間ニ當リ、檜原尤險ナ
 リ、會津、米澤ノ間ハ、僅ニ此一路アルノミ、北方ノ
 最上ニ接スル處ハ、漸平カニシテ、西境ハ、重山、更
 ニ深シ、而テ中間ハ、平地十里計、土人、能ク生産ヲ

勤メ、蠶桑ノ業、極テ盛ナリ、城北ノ温泉ヲ、赤湯ト
 云フ、浴客常ニ賑フ、其傍ニ沼アリ、白龍湖ト呼ブ、
 吉野川ノ源タリ、沼ノ東ハ、屋代郷トテ、自一郷ヲ
 ナス、羽黒川ハ、板谷峠ノ北ヨリ出ヅ、大樽、小樽ノ
 兩川ハ、檜原ノ脈ニ發シ、相合ヒテ鬼面川ト云フ、
 野川ハ、朝日岳ヨリ來リ、其流十里ノ遠キニ及ブ、
 ○朝日岳ハ、庄内、最上ノ三地ニ亘リテ、飯豊山ト
 相對シテ、共ニ越後ニ跨ル、國境ヲ、大里峠ト云フ、
 兩山ノ間、別ニ一郷ヲナシ、黒澤、榎木等ノ坂路ア
 リ、其間ノ平地ヲ、小國ト云フ、玉川、横川、相集リテ、

西ニ下ル、越後ノ荒川是ナリ、凡、國中ノ川谷、別ニ一河ヲ為シテ、最上川ニ入ラザル者ハ、惟、此川アルノミ、

羽後ハ、秋田、山本、河邊^{ツウベ}、仙北^{オカサ}、雄勝^{ヒニカ}、平鹿^{ユリ}、由利^{アクミ}、飽海

ハ郡ナリ、

阿部比羅夫、舟師ヲ率斗テ、越國ヨリ蝦夷ヲ伐テ、飽田^{アタシロ}、淳代、津輕ノ地ヲ定メ、其郡領ヲ置ク、飽田ハ、

即秋田ナリ、淳代ハ、野代ニシテ、今ノ山本郡ノ地、而テ津輕ハ陸奥ニ屬ス、其後七十餘年、出羽柵ヲ

秋田ニ徙シ、其多賀柵ヨリ、行路ノ迂遠ナルヲ以

テ、新ニ雄勝ノ直路ヲ開キ、後二十餘年ヲ經テ、雄

勝城ヲ造リ、翌年、雄勝、平鹿ノ二郡ヲ置ク、寶龜ノ

末、阿部家麻呂奏シテ、秋田城ヲ河邊ニ遷サント

ヲ請フ、朝議許サズ、且、曰ク、由利柵モ、亦秋田ノ道

ヲ承ク、共ニ將士ヲシテ、是ヲ鎮セシム可シト、後

二十餘年、遂ニ城ヲ廢シテ郡ト為シ、河邊府ニ遷リタレド、既ニシテ、又、秋田ニ復スト云フ、弘仁中、夷俘叛キ、城ヲ燒キ、火内^{ヒナイ}、野代及上遠野^{カドウノ}等ニ據ル、藤原保則討シテ、是ヲ平ク、是ヨリ、邊境事ナキト、百七十年、清原武衡俘囚ノ長ヲ以テ、悉、山北ノ地

ヲ領ス前九年ノ役源賴義其兵ニ賴リテ安倍貞
任ヲ誅滅スルヲ得タリシトゾ
北ハ陸奥ノ津輕ニ接シ西ハ羽前ノ寂上庄内ト
相交ル東ハ大山脈ヲ分チテ陸中ニ界ス駒岳ハ
即御駒岳ニシテ大深山駒形山藥師岳阿彌陀岳
時宗山及國見ハ方ノ諸嶺其間ニ連リ馬蛭岳箕
川岳ト相並ビテ大柴山ニ接ス小安岳虎毛岳其
隅ニ峙チ鍋岳ハ羽前ニ跨リ寂上ノ境ヲ杉峠ト
ナス其脈西ニ亘リテ鳥海山ニ連ル○森吉山ハ
鹿角ノ境ニ聳エ土高場日暮ノ諸山其北ニ列

折レテ西ニ環ル其隅ヲ矢立峠トナス森山泊岳
池臺山等屏列シテ直ニ海岸ニ至ル其盡タル處
ノ岩館ト云フ即大間越ノ險路ヲ承クル者トス
○太平山ハ國ノ中央ニ立チ岩見山鶴養山龍峯
等其背ニ重リ大佛山ハ仙北比内兩地ノ界ヲ限
リテ駒岳森吉山ノ間ニ連ル其間ハ總テ深山幽
谷ニシテ瀑布十餘或ハ十五丈或ハ二十丈其寂
大ナル者二條共ニ高五十丈白糸瀧ハ北ニ落チ
テ比内ノ大又川トナリ大籠ハ南ニ流レテ玉川
ニ入ル

玉川ハ、小保内川トモ云フ、駒岳、大深山ヨリ發シ、
 南ニ流レ、田澤沼ノ下流、及角館川、齋内川ヲ并セ
 テ、西ニ下リ、又大佛岳ヨリ來ル、カシセ 鱒瀨川ト合ヒ西
 南ニ赴キ、御物川ニ入ル。○御物川ハ、最上川ニ次
 ク大河ニシテ、野代川ト、羽州ノ三大川ト稱ス、源
 ヲ小安岳ニ發シ、北ニ流レ、岩崎川、横手川ヲ并セ、
ジクワシ 神宮寺岳ノ麓ニ至リ、玉川ト相會ス、此兩川ノ流
 ル、地方ハ、古ノ山北ノ地ニシテ、今猶總稱シテ、
 仙北領ト呼ブ、水流ハ、相合ヒテ、西ニ赴キ、更ニ岩
 見山中ノ溪谷、及太平山ノ陰ヨリ出ツル、戸島川

ヲ并セ、秋田ヲ過ギテ、新川ト呼ビ、土崎湊ニ注ク、
 其流、三十餘里ニ及ブト云フ。○野代川ハ、米代ノ
 下流ニシテ、陸中ヨリ來リテ、西ニ下ル、比内ノ水
 四方ヨリ來リ注ク、其矢立嶺ヨリ來ル者ハ、屈曲
 環流シテ、津渡十數、故ニ四十八川ノ稱アリ、比内
 ハ、即火内ナリ、其地、鹿角、津輕ニ接シ、山間ノ平野
 四方七八里計、別ニ一郷ヲナス、土人ハ、郡ヲ以テ
 自稱スルニ至ル、水流ハ、直下シテ、早口、ツルコ 緩子ヲ過
 ギ、コツギ 小繫ニ至リ、兩山相合ヒテ、地勢ヲ限ル、七座山
 其上ニ聳エ、カ 籠山、岸ヲ夾ミテ相對ス、阿仁川ハ、大

小二川アリ、龍峯ヨリ出テ、大又川ト合ヒ、山谷ノ
 間ヲ穿チ下リ、大錠、小錠ノ險崖アリ、七座山^{ナクテ}下ニ
 至リテ合流ス、小繫^{コツナ}以下ハ兩山ノ峽ヲ穿ツ、一里
 餘、岸上、險路ナルヲ以テ亦舟ニテ往來ス、峽ヲ出
 レバ、平野相連ル、即古ノ澇代ノ地ニシテ、川流其
 中央ヲ流レ、藤琴川ヲ并セ、野代湊ニ入ル、仍テ野
 代川ト呼ブ、源ヨリ凡廿五里、御物川ト、共ニ舟運
 ノ上下スル者ニシテ、米代川ハ、取其上流ニ及ブ
 ト云フ、十餘里ニ及テ、^ハ西岸ハ、一帯日本海ニ臨ミ、中央ニ、男鹿山^{ヲカ}アリ、

條ノ洲路、二里餘、北ニ連リテ、一ノ出島ヲ為シ、其
 内ヲ八郎瀉トナス、島中ハ、寒風山、本山等、相聳エ、
 海中ハ、危石巨礁、峙チ列ル、龍頭岩、竅ニシテ、其
 他、石門岩、洞ノ奇絶アリ、○八郎瀉ハ、南北七里、東
 西四里ナル大湖水タリ、北隅ヲ、濱田ト云フ、即洲
 路ノ陸地ニ接スル處ニシテ、野代港ト相距ル三
 里、其東北ハ、廣原、相連ル十餘里、金光寺、原等ノ名
 アリ、大率荒廢シテ、開墾ノ業ニ就カズ、湖水南ニ
 流レテ船越ニ至リ、川トナリテ海ニ入ル、其湖海
 ノ間、甚近キヲ以テ、暴潮高ク漲ル時ハ、常ニ逆流

スト云フ、秋田城ハ、久保田ト呼ブ一都會ニシテ、御物川ヲ帶ビ、太平山其上ニ聳エ、土崎湊ト相距ル一里計、湊ハ頗繁華ナル處ニシテ、船越ト相距ル五里、野代ト共ニ酒田以北ノ良港トナス、應永中、安東太廣季ナル者、津輕ヨリ、船ヲ航シテ、湊ニ至リ、遂ニ秋田ヲ領シ、五世相傳ヘテ、常陸ニ遷サル、佐竹氏ノ代リテ、此地ニ封セラル、ヤ、由利ユリ、飽海ヲ除キ、其餘ノ六郡ヲ領ス、其地曠ク、民少クシテ、原野往々荒蕪ス、然レ氏隣境ニ接スル地ハ、堡砦ヲ置キ、

各小城市ヲ為セリ、大館ハ、矢立嶺ヲ距ル五里、比内ノ中央ニアリ、湯澤ハ、杉峠ノ北、四里ニシテ、角館ハ、國見嶺ヲ距ル六里、而テ横手ハ、兩地ノ中間ニアリテ、共ニ仙北ニ屬ス、其北ヲ、金澤トナス、即清原家衡、武衡ノ據レル所ニテ、古蹟猶存セリ、由利ハ、鳥海山ノ北陰ヲ環リ、飽海郡ト腹背ヲナス、東北ハ、保呂羽ホロ、八鹽ハヤシキノ山脈、相連リテ、仙北ヲ限リ、西ハ海ニ臨ミ、三崎嶺ヨリ、御物川ノ海口ニ至ル、一帯ノ沙濱ニシテ、其間二十里計、子吉川コキケハ、源ヲ、鳥海山ノ東麓ニ發シ、矢島ヲ過ギテ、西ニ流ル、

羽廣川ハ、保呂羽山ヨリ出テ、相合フテ、本庄ノ城
 市ヲ繞リ、海ニ入ル、河口ヲ、古雪湊ト云フ、亦舟泊
 ノ地タリ、此他、鳥海山ノ、谷間ヨリ出ツル者、安沼
 鳥越ノ諸川、相集リテ、白雪川トナリ、直ニ海ニ入
 ル、其南溪ニ發スル者ハ、日光、月光ノ兩川、共ニ吹
 浦ニ注ケリ
 象潟ハ、松島ト、東西相對シ、勝景ノ地ト稱ス、其地、
 三崎嶺ノ麓ニ接シ、海濱ヲ、夕越ト云フ、潟ノ周田
 一里餘、中ニ島嶼アリシモ、文化ノ初、地震ノ為メ
 ニ崩レテ、平田トナリ、湖口ハ、海潮逆流シテ、徒ニ

其名ヲ存セルノミ
 奥羽ノ産馬ヲ以テ良トナス、其來ル久シ、弘仁六
 年、陸奥出羽按察使奏ス、軍團ノ要ハ、馬ヨリ先ナ
 ルハナシ、然ニ權門富人、搜求絶エズ、兵馬、是ニ由
 テ闕乏ス、請フ延曆六年ノ定條ニ依リテ、嚴禁セ
 ント、其後、貞觀三年ノ制ニ、陸奥ノ馬ハ、境ヲ出サ
 ズ、一既ニ久シ、今、法禁漸ク弛ブ、凡、戎馬ノ用ニ
 堪ヘル者ハ、牝牡トナク、悉、境ヲ出スヲ禁ス、其
 駿良ノ産、軍國ノ用ニ供スル者、古既ニ斯ノ如ク、
 今、猶然リ、三春ノ馬、其最駿ナル者、然レ、凡物ニ驚

キ易シ、故ニ五戸、七戸ノ産ヲ第一トナス、是ヲ五
七ノ馬ト呼ブ、比内ノ産、阿仁ト云ヒ、是ニ次ク、南
部ハ、澤内、栗石ヲ良トシ、仙臺ハ、岩崎、宮崎、迫、鬼首
等ノ産アリ、最上、秋田是ニ次キ、米澤、會津是ニ次
キ、庄内、津輕、又、是ニ次ク、東海岸ハ、氣仙、宮古、八戸、
田名部ノ産ハ、駕ト雖モ、猶用ニ供ス可シ、相馬、岩
城ニ至リテハ、殆馳驅ノ技ニ堪ヘザル者、是ヲ最
下トナス、而テ、牛ハ南部、秋田ヲ名産ト稱ス、其金
鐵、諸礦ノ盛ナルモ、亦各地ノ良産タリ、會津、秋田、
最上ノ山中ハ、金、銀、銅、鐵ヲ出シ、仙臺ハ、銀、鉛、津輕

ハ、銀、銅、南部ハ、銅、岩鐵ヲ出ス、半田、銀山、細倉、鉛山、
幸生、銅山、其名、最聞ユ、硫黃、綠礬、温泉ノ地、必、是
ヲ産ス、石炭ハ、岩城ヲ稱スレモ、近來、秋田、山本二
郡ノ地、多ク産出ス、蠶桑ノ業ハ、各地、共ニ盛ナリ、
本吉ノ絲、最、其良タリ、呼ブニ、金華山ヲ以テスル
者、全國中、多ク、其比ヲ見ズ、卯紙ハ、逢隈、川沿岸ノ
地、盛ニ製造ス、然レモ、伊達、信夫ニ於テ、川村三十
六村ト稱スル者ヲ、第一トナス、織物ハ、仙臺、平、南
部、縮緬、庄内、絲織、秋田、畝織ニ本松、紬、白石紙、布等
ニシテ、仙臺ハ、更ニ七子、八端ノ諸品ヲ出シ、南部

ハ、近來多ク産セバシテ、秋田、頃年ハ文縞ヲ擬造
 ス、而テ織工ノ盛ナルハ、米澤ニ若ク者ナシ、絲織
 紬ノ諸品ヨリ、博多織、琉球紬ノ類ニ至ル迄、模擬
 ノ品、極テ巧ナリ、且、麻、苧モ此地ノ良品ニシテ、近
 江、晒、越後縮等、悉是ヲ用キザルナシ、最上、西岩井
 モ、亦、麻、苧ヲ出ス、北上川ノ鮭ハ、仙臺子籠セニト稱ス
 ル者、最、美味タリ、南部鮭ハ、小本川、市川ヲ盛ナリ
 トナス、而テ、各地ノ川流、是ヲ漁ヒサルナシ、實ニ
 東北ノ一大名品ナリ、材木ハ、山深ク谷幽ナルカ
 故ニ、諸材産ヒサルナキモ、田名部ノ檜材ヲ、第一

トナス、藥草モ、亦、數多ナレド、會津ノ人參ヲ推ス、
 秋田落ノ大ナルハ、自、一ノ名産ニシテ、南部ノ百
 合、旱藕カニケリ是ニ次ク、南部ハ、又、紅花ノ産シテ、最上ト
 共ニ稱セラル、仙臺ノ大豆、亦、輸出ノ大ナル者、岩
 城ハ海漁ヲ盛ニシテ、鯉節、魚油、榨粕等ヲ出ス、煎
 海鼠ウシ、干鰯カ、干鮑カハ、三陸ノ海岸、悉是ヲ製ス、金海鼠キン
 ハ、金華山ノ産ニシテ、海栗ウシハ、水戸部ヲ美味トス、
 鑄物ハ、南部ノ鐵瓶、其最良ナル者ナリ、磁器ハ、會
 津燒ヲ推シ、陶器ハ、相馬燒ヲ賞ス、津輕塗、野代塗、
 會津塗、共ニ、漆器中ノ美、或ハ盛ナル者ナリ、岩城

